

令和2年度 加賀市男女共同参画に 関する市民意識調査 結果報告書



令和3年3月

加賀市

目次

●概要

- ・調査概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- ・調査結果の要約・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

●回答者の属性

- ・問1. あなたについて・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

●社会全体での男女平等について

- ・問2. 社会全体での男女平等について・・・・・・・・ 6

●家庭における男女平等について

- ・問3. 家庭における男女平等について・・・・・・・・ 12

●職場における男女平等について

- ・問4. 男女が共に働き続けるための今後の対策について・・・・ 16
- ・問5. 職場における男女平等について・・・・・・・・ 17
- ・問6. 女性が管理職につくことについて・・・・・・・・ 22
- ・問7. あなたが管理職につくことについて・・・・・・・・ 23
- ・問7-1. 問7で「断る」「分からない・その他」と答えた理由・ 24

●地域における男女平等について

- ・問8. 女性が区長やPTA会長などの役職につくことについて・・ 25
- ・問9. あなたが区長やPTA会長などの役職に推薦された時の対応 26
- ・問9-1. 問9で「断る」「分からない・その他」と答えた理由 26

●男女の人権について

- ・問10. DVの経験や見聞きしたことがあるかについて・・・・ 28
- ・問10-1. DVを受けた時の相談先について・・・・・・・・ 29
- ・問11. DV被害の相談先について・・・・・・・・・・・・ 30

●男女共同参画社会について

- ・問12. 男女共同参画社会の実現について・・・・・・・・ 31
- ・問13. 「ワーク・ライフ・バランス」の実現について・・・・ 34

●資料

- ・データ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
- ・調査票・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

調査概要

1. 目的

今回の調査は、男女共同参画についての市民の意識を把握し、男女共同参画社会の実現に向けた施策の基礎資料とすることを目的とする。

2. 対象

- (1) 市内に居住している 20 歳以上の市民
- (2) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (3) 標本数 2,000 人

3. 調査

- (1) 方法 郵送法
- (2) 調査期間 令和 2 年 7 月 29 日～令和 2 年 8 月 15 日

4. 有効回答率

31.4%

有効回答率＝回収数÷(標本数－配達不能)

有効回収数＝628 通

配達不能＝3 通

5. データの注意事項

小数点第 2 位を四捨五入しているため、合計が 100%にならない場合があります。

調査結果の要約

1. 社会全体での男女平等について

- ・社会全体として「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合は、全体の半数程度あり、男性よりも女性の方が高かった。また、社会全体としてだけでなく、家庭、職場、地域、学校、政治、法律・制度の中で、学校を除いたすべての項目において「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が高かった。
- ・社会全体においても、また家庭、地域、法律・制度面においても、「平等である」と答える割合は女性より男性の方が高く、男女間における意識の差は大きい。
- ・前回調査と比べると、学校現場で「平等である」と答えた人の割合が21.7ポイント増え、48.7%となった。

2. 家庭における男女平等について

- ・「どちらかというとも男性優遇」と答える割合は、男性よりも女性の方が高かった。
- ・家庭内での役割として、PTA や地域活動への参加は、男性は「どちらかと言えば夫の役割」、女性は「どちらかと言えば妻の割合」と答えた割合が最も高かった。それ以外の家庭内の仕事は、「どちらかといえば妻の役割」と答えた人の割合が高かった。

3. 職場における男女平等について

- ・「昇進や昇格」以外の項目で、「平等である」と答えた人の割合が最も高くなった。
- ・女性が管理職に就くことについて、約8割が「賛成」または「やや賛成」と答えた。ただし、賛成と答えた割合は、年代が高くなるほど減少している。
- 一方で、自身が管理職への昇進を打診された場合に「引き受ける」と答えた女性は「断る」と答えた女性より少ない割合となった。

4. 地域における男女平等について

- ・「どちらかといえば男性優遇」と答える割合は、半数近くみられるが、男女で回答の差はあまり見られなかった。
- ・女性が地域における役職(区長やPTA会長)に就くことについて、「賛成」と「やや賛成」をあわせた回答は7割を超えているものの、「推薦されたら引き受ける」と答える女性は、男性よりも少なかった。

5. 女性の人権について

- ・「DVを受けたことがある」と答えた女性の割合は、男性に比べ高い割合だった。
- ・「DVを受けたことがある」と答えた人のうち、約半数は、「相談しなかった」と答えている。公的な機関に相談した割合は少ない。
- ・「DV 被害の相談先について知っていますか」の質問に対して、「知っている」と答えた人の割合は、前回調査に比べ、約2倍に増加した。

6. 男女共同参画社会について

- ・男女がともに働き続けるためには、「育児休業・介護休暇制度を取得しやすくする環境づくり」を求める声が多かった。
- ・男女共同参画社会を実現するためには、「男女がお互いの立場を尊重しあう」ことや「家事や育児・介護などは男性も積極的に分担することが必要」であると答える人が多かった。

7. ワーク・ライフ・バランスの実現について

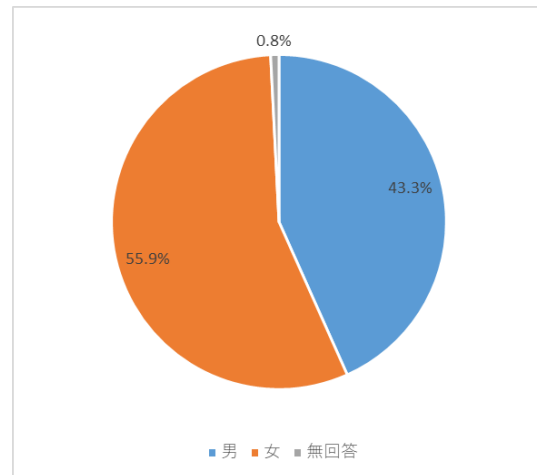
- ・ワーク・ライフ・バランスの実現のために「労働時間の短縮、育児休業・介護休業制度等の普及」と「男女の均等な雇用機会と待遇の促進」を求める声が多かった。
- ・行政に対しては「保育サービスの充実」、「高齢者・障がい者等への福祉サービスの充実」を求める回答が多かった。

●問1. あなたについて

あてはまるものをそれぞれ1つ選んでください。

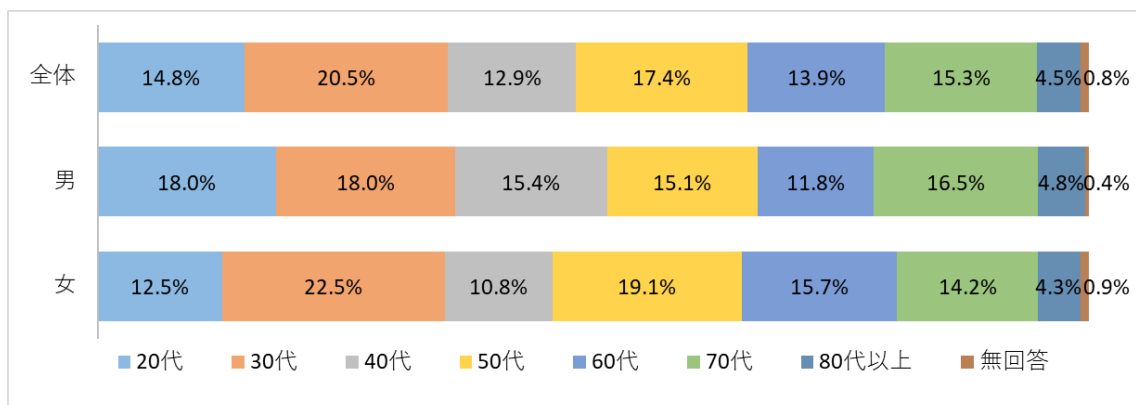
性別

- 全 体:n=628
- 男 性:n=272
- 女 性:n=351
- 無回答:n=5



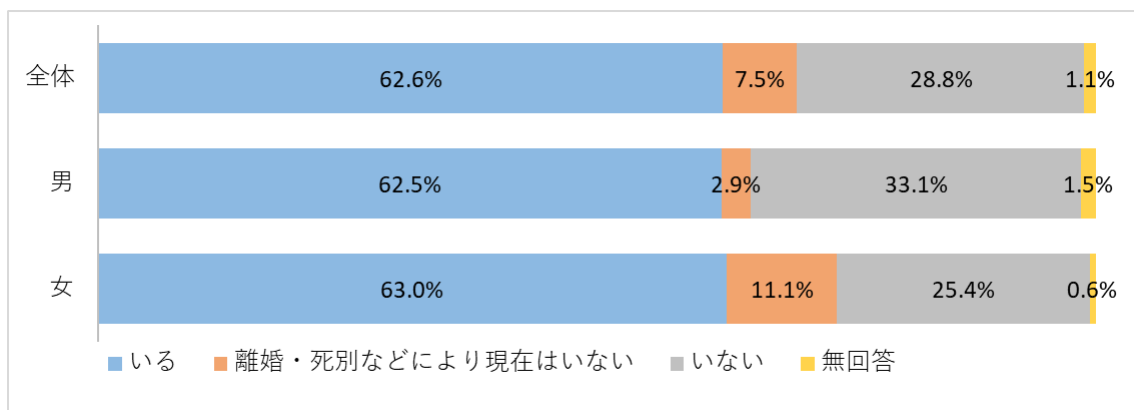
年代

- 全 体:n=628
- 男 性:n=272
- 女 性:n=351
- 無回答:n=5



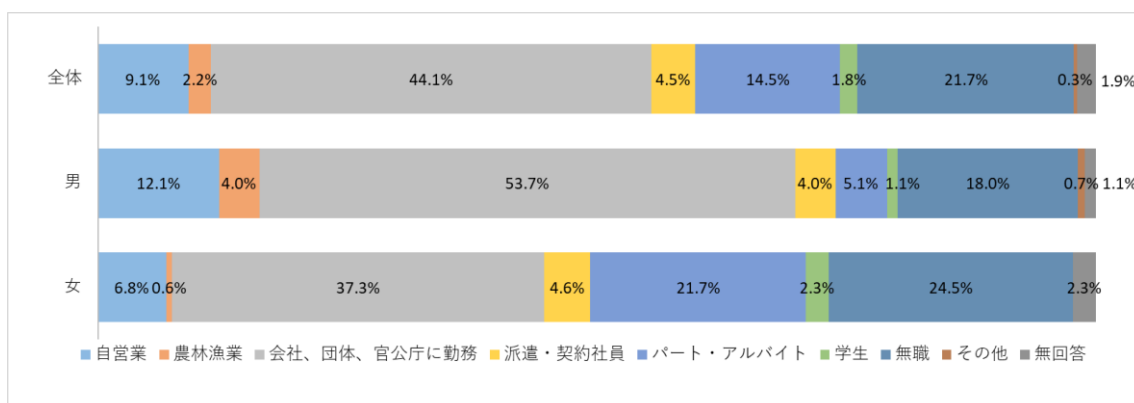
配偶者はいますか

- 全 体:n=628
- 男 性:n=272
- 女 性:n=351
- 無回答:n=5



お仕事は何ですか

選択項目	全体		男		女		無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
自営業	57	9.1%	33	12.1%	24	6.8%	0	0.0%
農林漁業	14	2.2%	11	4.0%	2	0.6%	1	20.0%
会社、団体、官公庁に勤務	277	44.1%	146	53.7%	131	37.3%	0	0.0%
派遣・契約社員	28	4.5%	11	4.0%	16	4.6%	1	20.0%
パート・アルバイト	91	14.5%	14	5.1%	76	21.7%	1	20.0%
学生	11	1.8%	3	1.1%	8	2.3%	0	0.0%
無職	136	21.7%	49	18.0%	86	24.5%	1	20.0%
その他	2	0.3%	2	0.7%	0	0.0%	0	0.0%
無回答	12	1.9%	3	1.1%	8	2.3%	1	20.0%
計	628	100.0%	272	100.0%	351	100.0%	5	-



●問2. 社会全体での男女平等



現在の日本社会は男女平等になっていると思いますか。「家庭の中では」～「社会全体では」の7項目について、あなたの環境や考えに近いものを1つ選んでください。

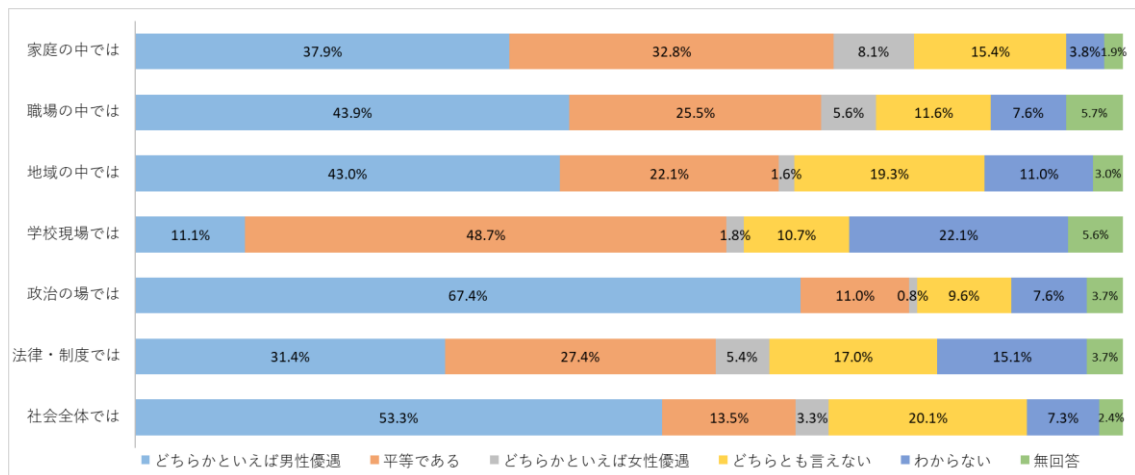
1. 全体

社会全体での男女平等の特徴

「学校現場では」を除く6つ全ての項目において、「どちらかと言えば男性優遇」と答えた人の割合が高かった。

「どちらかと言えば男性優遇」と答えた人の割合が高かった項目は、「政治の場」67.4%、「社会全体」53.3%、「職場の中」43.9%の順となっている。

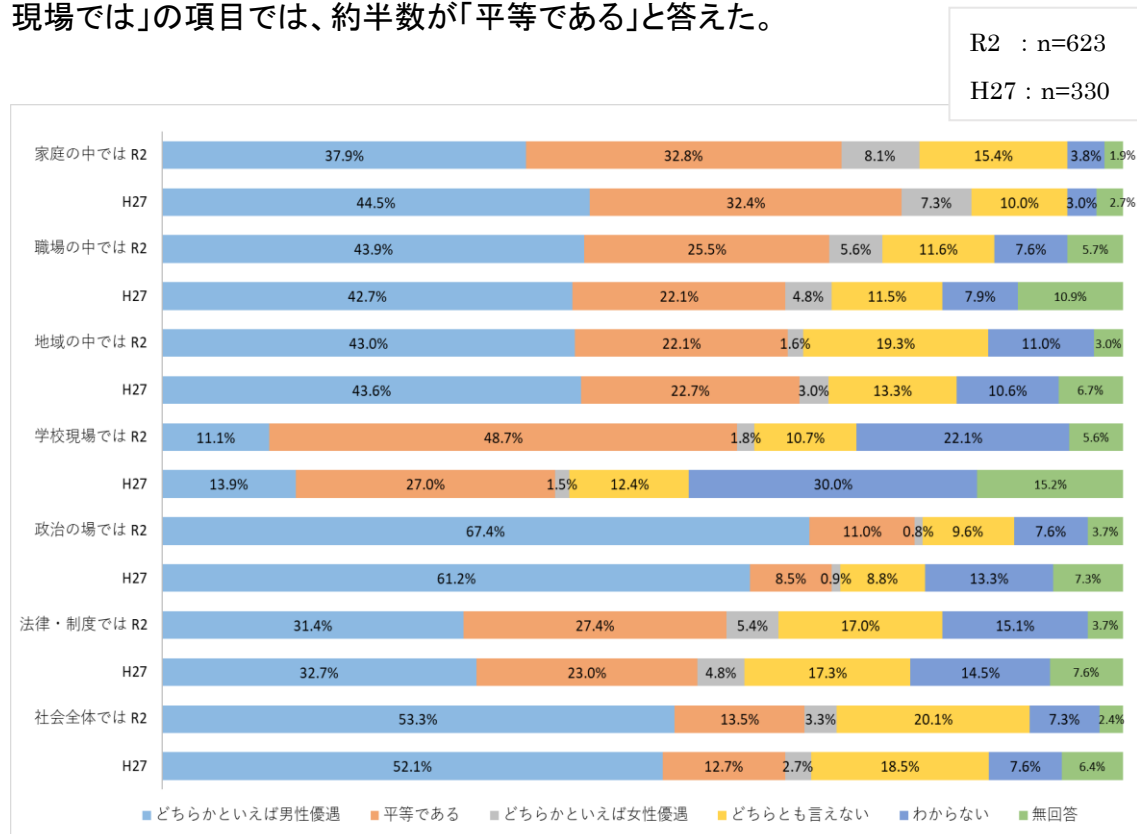
(n=623)



社会全体での男女平等の特徴(H27 年調査との比較)

「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合は、「政治の場では」「社会全体では」以外の項目で減少した。特に、「家庭の中では」の項目で、6.6ポイント減少した。

「平等である」と答えた人の割合は、「地域の中では」以外の項目で増加し、「学校現場では」の項目では、約半数が「平等である」と答えた。

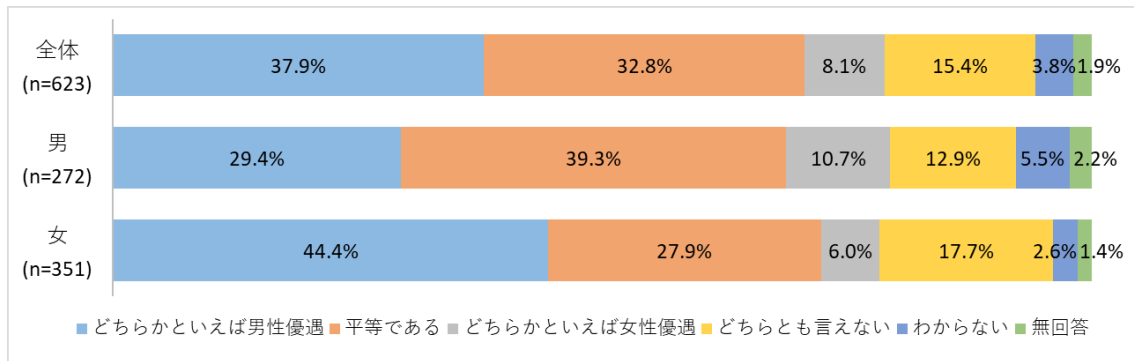


2. 分野別

(1) 家庭の中では(男女別)

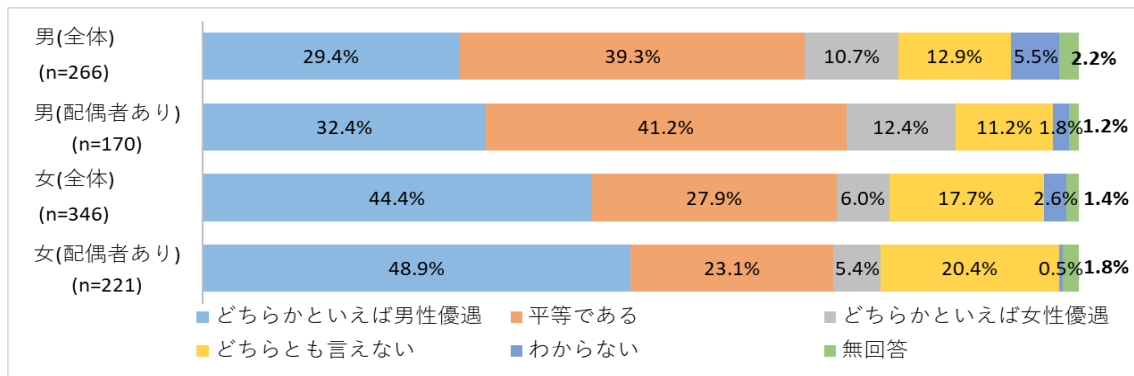
男性は、「男女平等になっている」と回答した人の割合が最も高いが、女性は、「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が最も高かった。

男性は、39.3%が「平等である」と回答しているが、女性は27.9%と、男女間で差がある。



(2) 家庭の中では(配偶者がいる世帯)

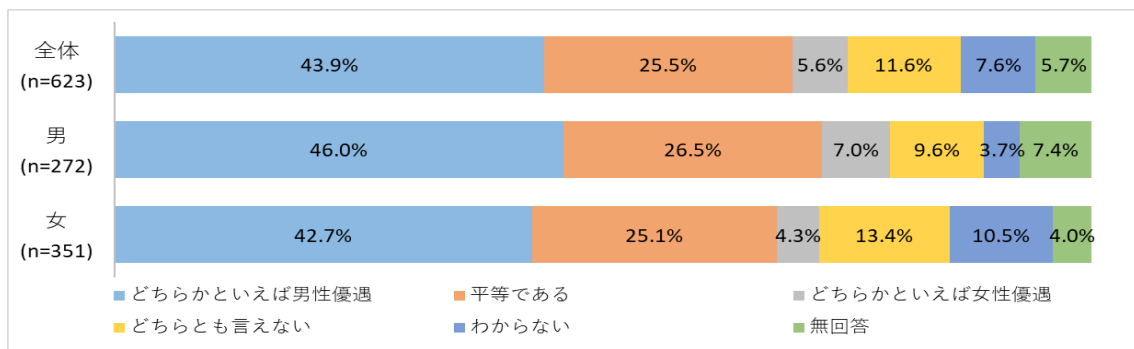
配偶者がいる女性は、「平等である」「どちらかといえば女性優遇」と答えた割合が女性全体より若干低い。



(3) 職場の中では(男女別)

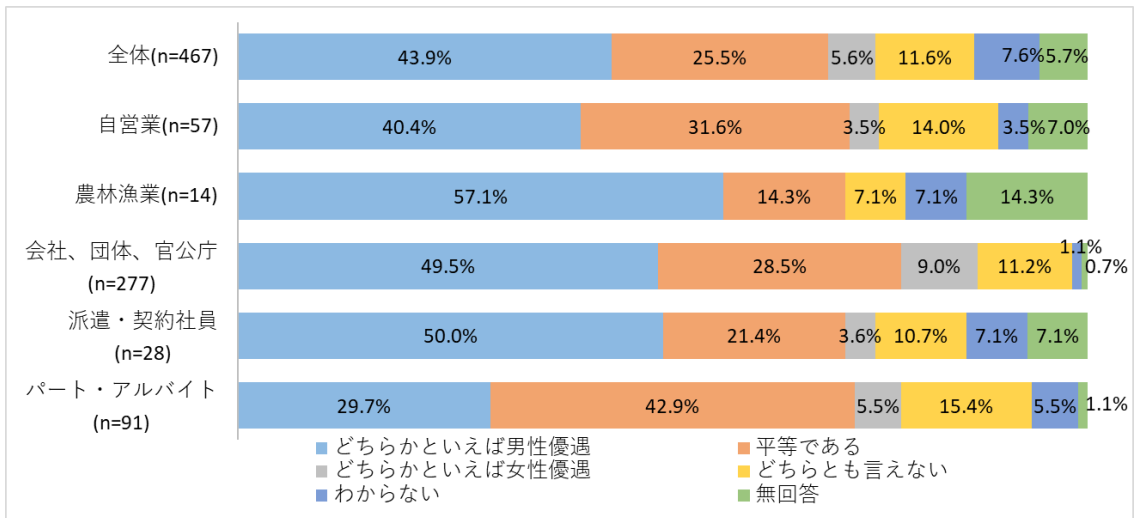
男女ともに「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が最も高かった。

女性は男性と比べて、「どちらかといえば男性優遇」と回答した人の割合が低い結果となった。



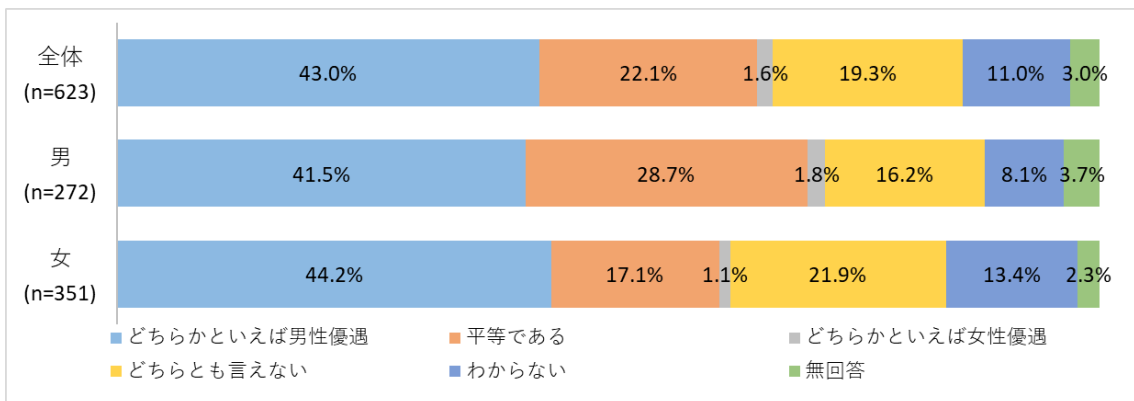
(4) 職場の中では(職業別)

パート・アルバイトとして働く人は、「平等である」と答えた人の割合が最も高く、全ての職業の中で、唯一「どちらかといえば男性優遇」を上回った。



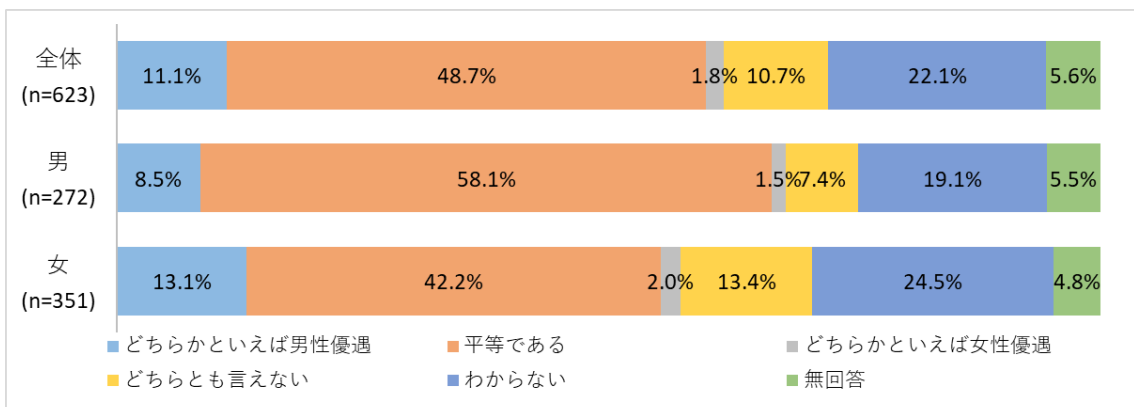
(5) 地域の中では

男女とも「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が、最も高かった。



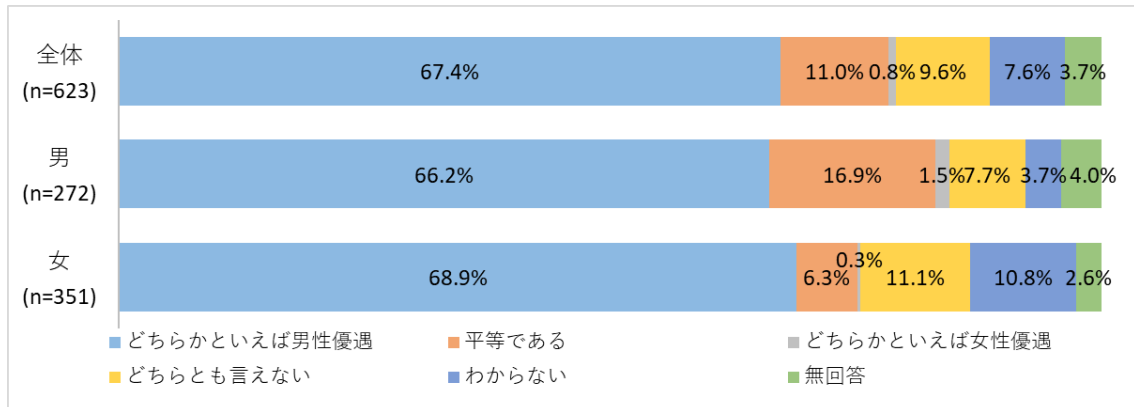
(6) 学校現場では

全体では、「平等である」と答えた人が半数を占めているが、「平等である」と答えた人の割合は、男女間で約16ポイントの開きがある。



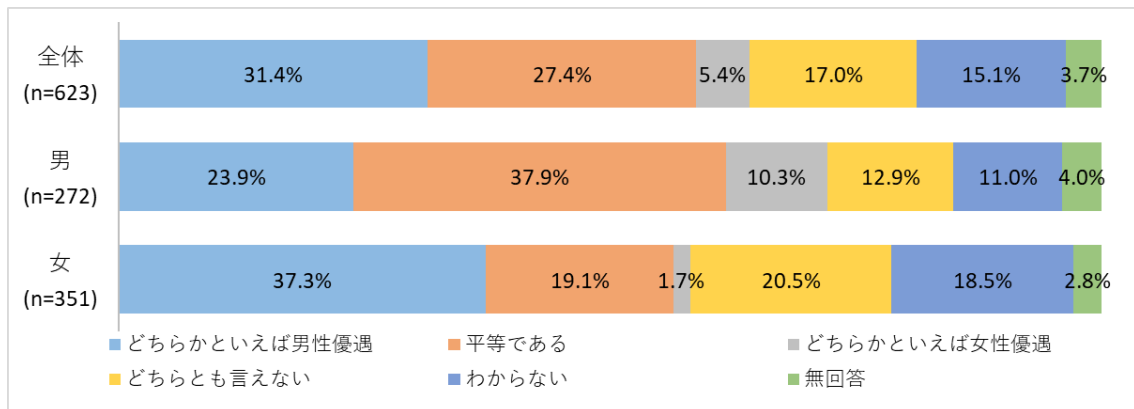
(7) 政治の場では

全体では、67.4%の人が「どちらかといえば男性優遇」と答えており、他の項目に比べても高い割合となった。



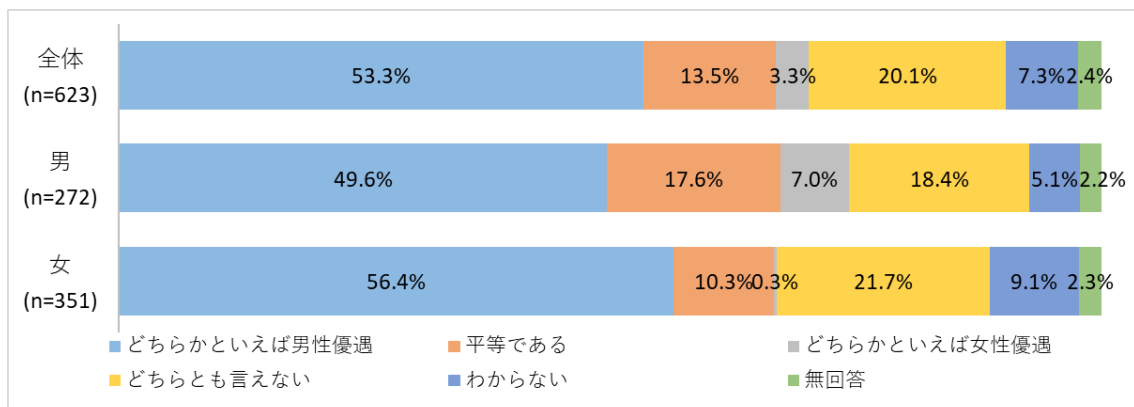
(8) 法律制度では

男性は、「平等である」と答えた人の割合が最も高く、女性は、「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が最も高かった。



(9) 社会全体では(男女別)

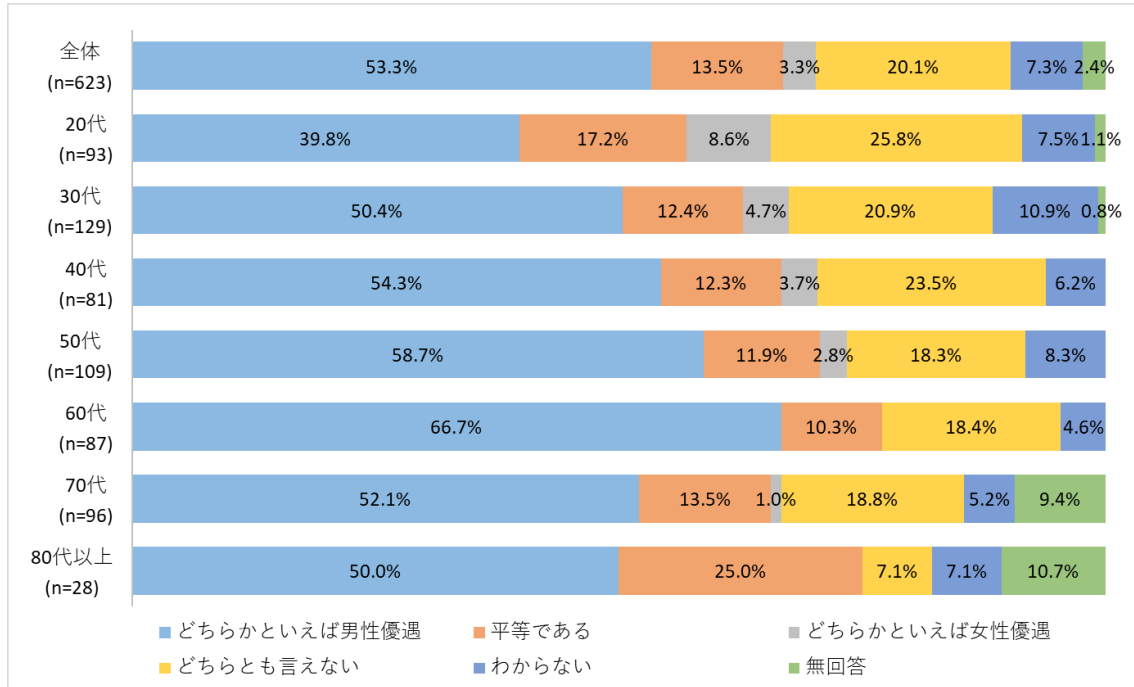
「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が、半数以上を占めた。



(10) 社会全体では(年代別)

若年層では、「平等である」「どちらとも言えない」と答えた人の割合が高かった。

全ての年代で、「どちらかといえば男性優遇」と答えた割合が、最も高い。



●問3. 家庭における男女平等について

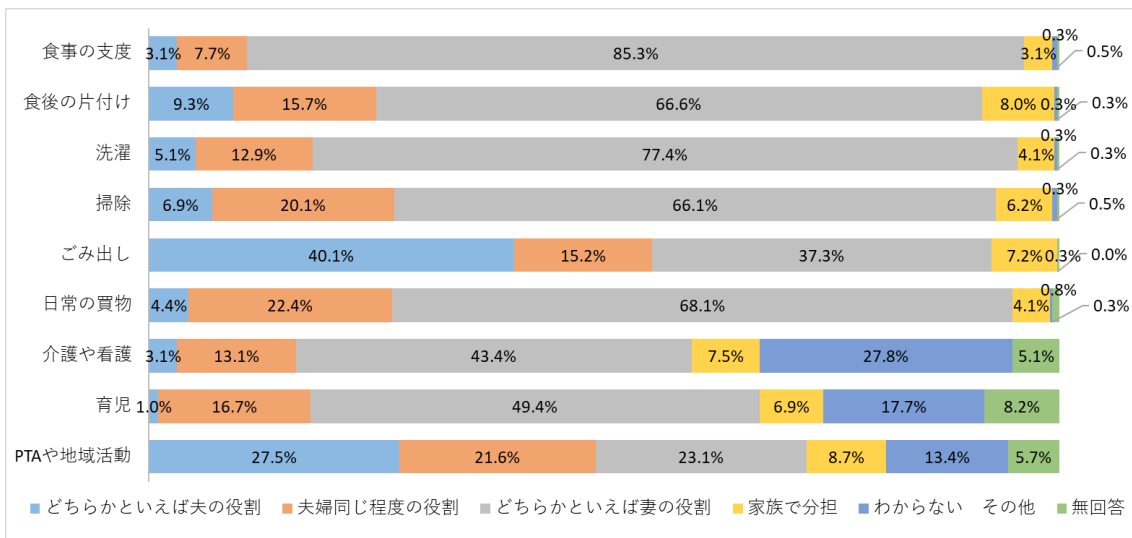
配偶者のいる方にお尋ねします。家庭における仕事の役割はどうなっていますか。
「食事の支度」～「PTAや地域活動への参加」の9項目について、現状に近いものを
1つ選んでください。

1. 全体

家庭における男女平等についての特徴

「ごみ出し」と「PTAや地域活動」を除いた項目で、「どちらかといえば妻の役割」と
答えた人の割合が最も高かった。

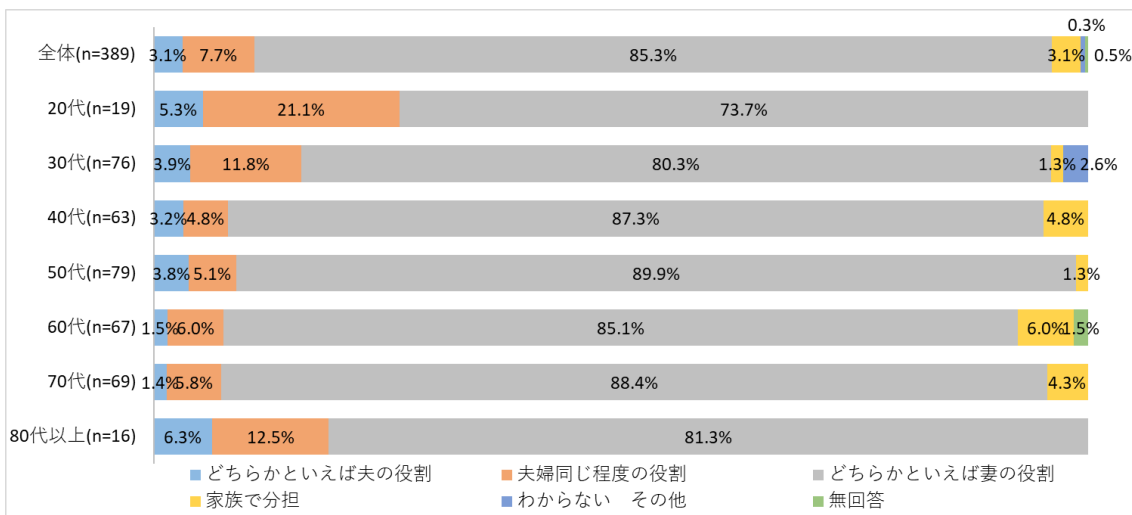
(n=389)



2. 分野別

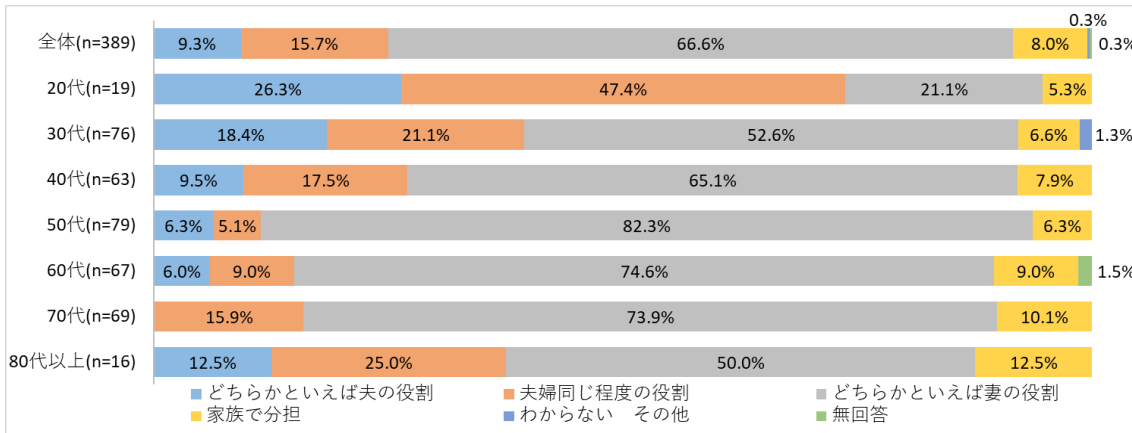
(1) 食事の支度

全ての年代で、「どちらかといえば妻の役割」と答えた人が大半を占めた。



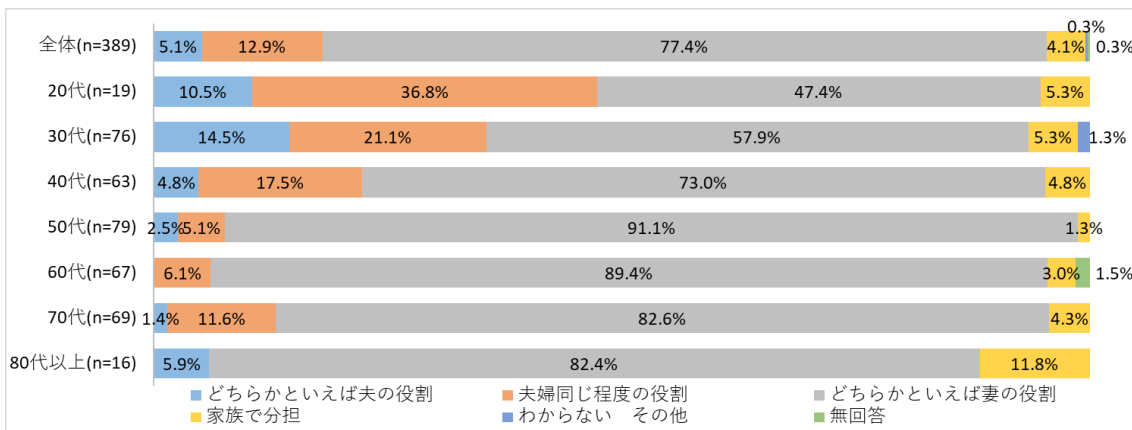
(2) 食後の片付け

20代では、「夫婦同じ程度の役割」と答えた人の割合が最も高かったが、その他の年代では、「どちらかといえば妻の役割」と答えた人が半数以上を占めた。



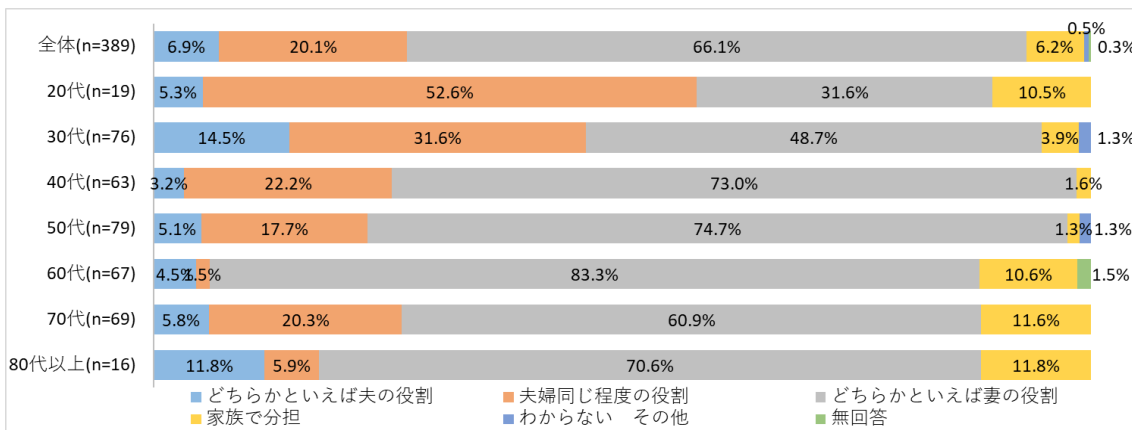
(3) 洗濯

全ての年代で、「どちらかといえば妻の役割」と答えた人の割合が半数以上を占めており、50代以上では、80%以上が「どちらかといえば妻の役割」と答えている。



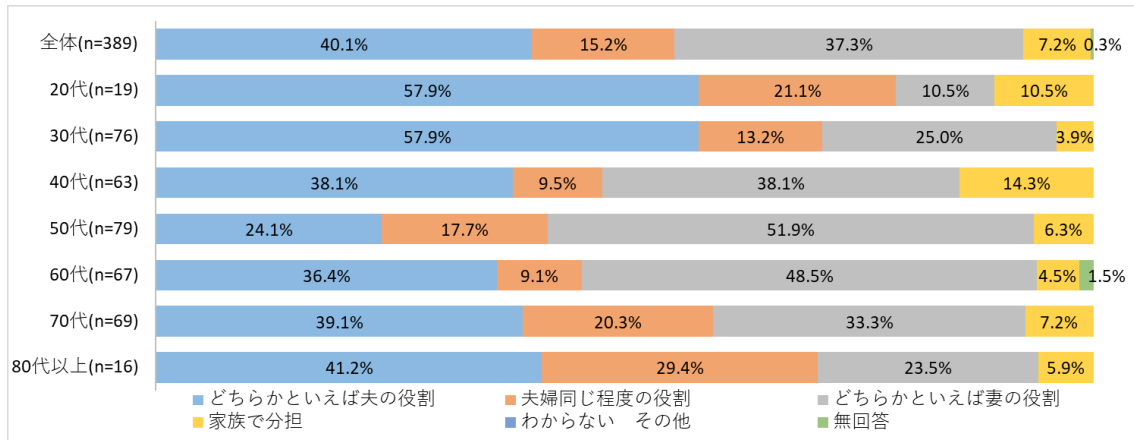
(4) 掃除

20代では、「夫婦同じ程度の役割」と回答した人が最も高かったが、他の年代では、「どちらかといえば妻の役割」と答えた人の割合が最も高い。



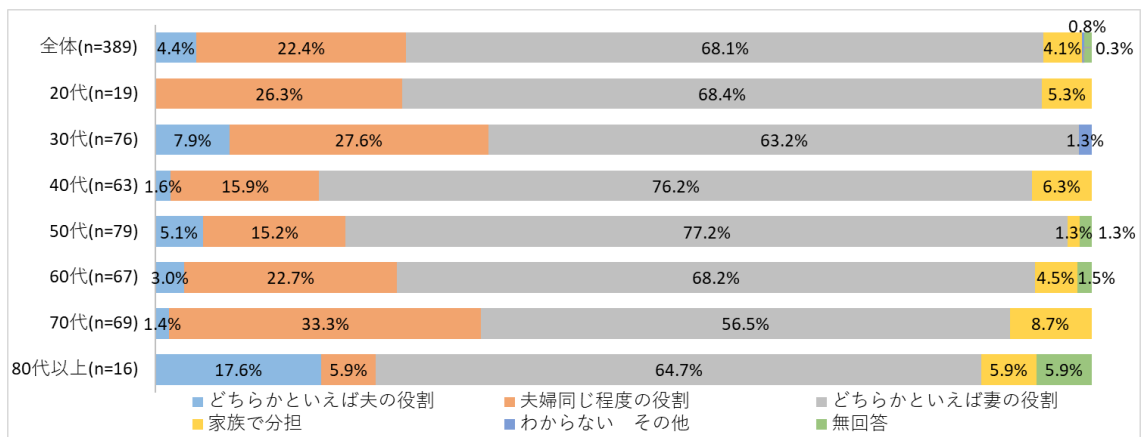
(5) ごみ出し

「どちらかといえば夫の役割」と答えた人の割合が最も高かったが、「どちらかといえば妻の役割」との差は2.8ポイントに留まっている。



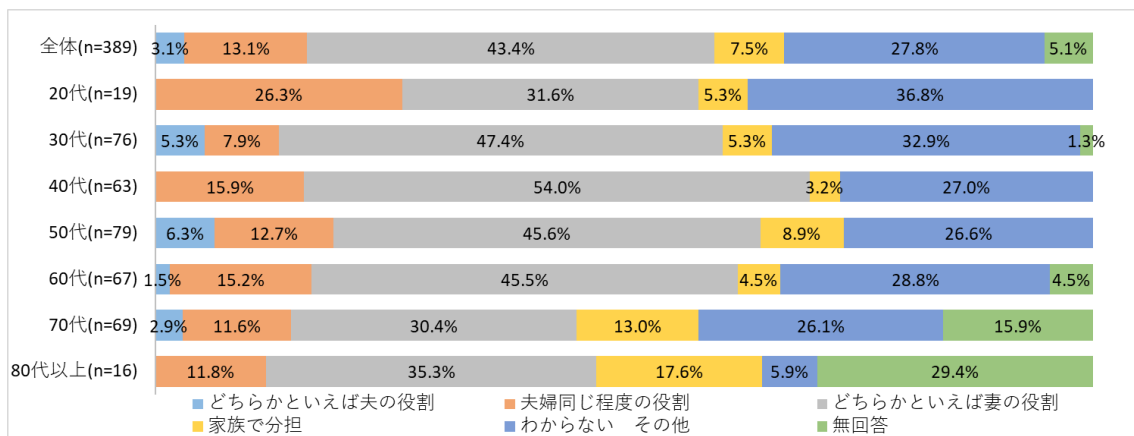
(6) 日常の買い物

全ての年代で、「どちらかといえば妻の役割」と答えた人の割合が大半を占めた。



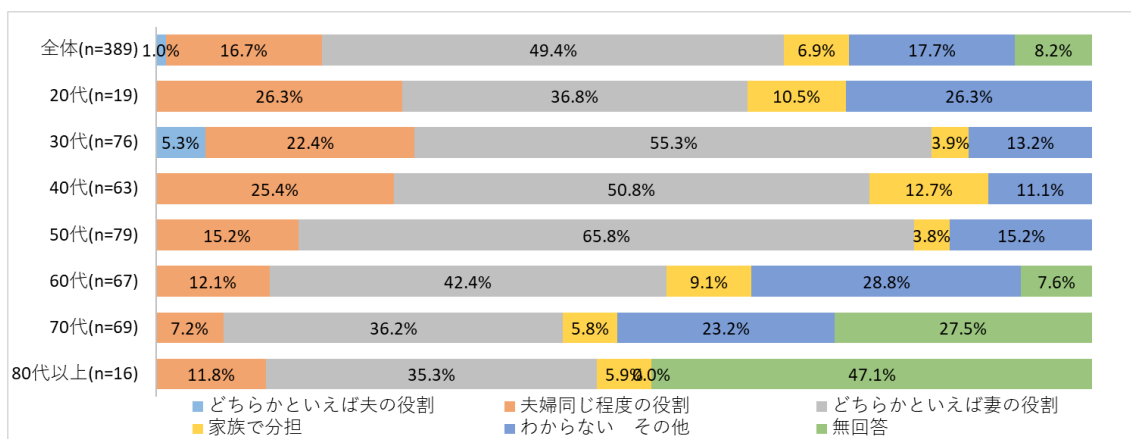
(7) 介護や看病

全ての世代で、「どちらかといえば妻の役割」と答えた人の割合が最も高かった。



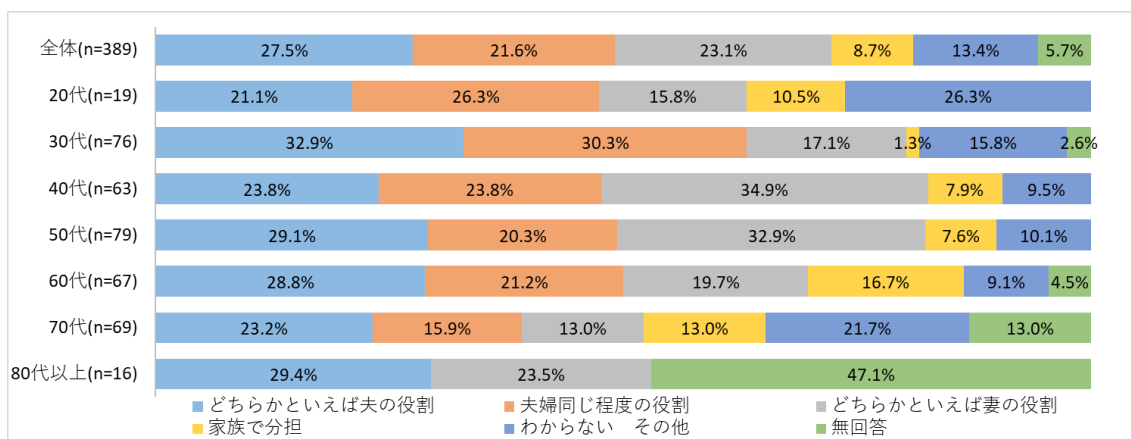
(8) 育児

全ての世代で、「どちらかといえば妻の役割」と答えた人の割合が最も高かった。



(9) PTA や地域活動

全体では、「どちらかといえば夫の役割」と答えた人の割合が最も高かったが、40代と50代では、「どちらかといえば妻の役割」と回答した人の割合が高い。



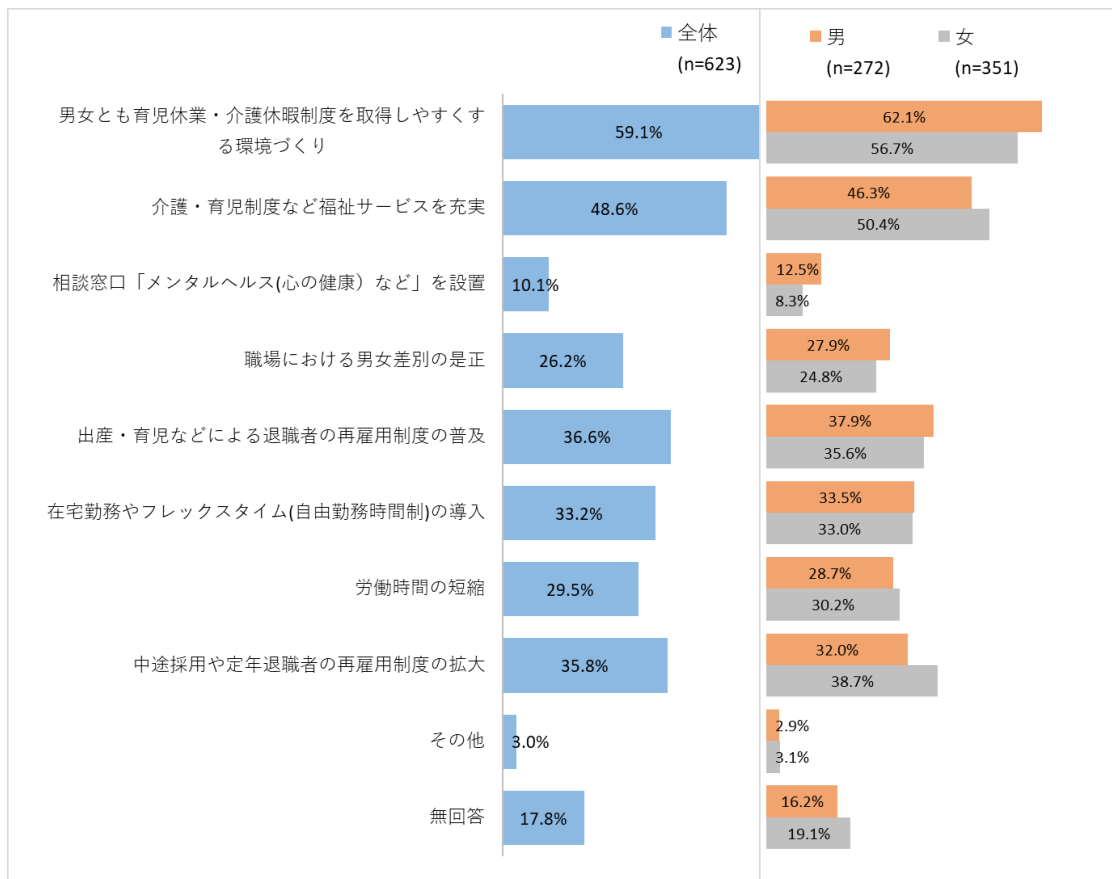
●問4. 男女が共に働き続けるための対策について

男女が共に働き続けるためには、今後どのような対策が必要だと思いますか。
あなたの考えに近いものを、3つ選んでください。

1. 職場における男女平等についての特徴(男女別)

男女間で、回答傾向に大きな差は見られなかった。全体で回答の多かった項目の上位3つは次のとおりとなった。

1. 「男女とも育児従業・介護休暇制度を取得しやすくする環境づくり」 59.1%
2. 「介護・育児制度など福祉サービスを充実」 48.6%
3. 「出産・育児などによる退職者の再雇用制度の普及」 36.6%



自由記載欄

- ・不妊治療、つわり時の休暇の取得(30代女性)
- ・社会は男女ともに平等に働くものと子供のうちから教育する(50代女性)
- ・小学校低学年から、教育の場で男女共同社会の意識づけを行う(20代男性)
- ・対策が作られたとしても周知されないと意味がない、男女年齢関係なく広く周知されるようなツールが必要なのでは?(30代女性)
- ・男性(特に年配)の意識を変える。家庭における女性の負担を減らす。(50代女性)

●問5. 職場における男女平等について

あなたの職場は男女平等になっていると思いますか。

次の項目について、あなたの環境や考えに近いものをそれぞれ1つ選んでください。

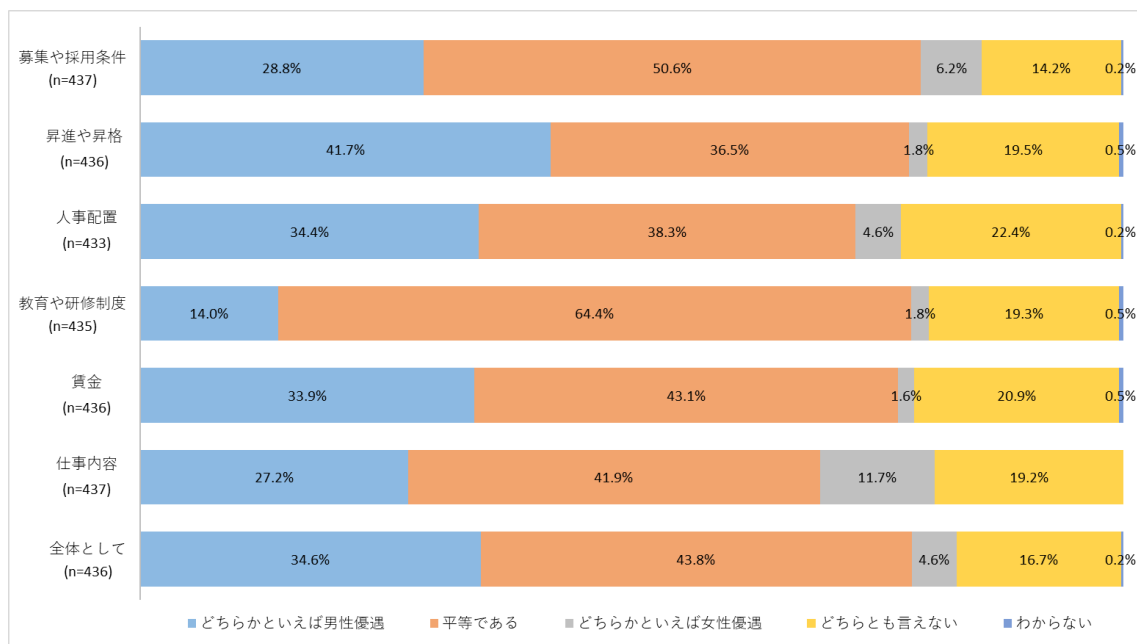
1. 全体

職場における男女平等の特徴

全ての項目で、「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が、「どちらかといえば女性優遇」を大きく上回っており、特に「昇進や昇格」については、41.7%の人が「どちらかといえば男性優遇」と回答した。

一方、「昇進や昇格」を除く項目では、「平等である」と答えた人の割合が最も高くなり、「どちらとも言えない」と答えた層が全ての項目で一定数見られる。

「どちらかといえば女性優遇」に注目すると、「仕事内容」が11.7%と最も高い割合となっている。

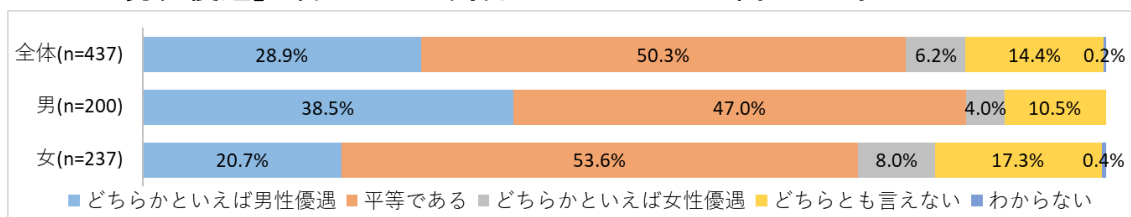


※「無回答」を除いているため、nの値が項目により異なる

2. 分野別

(1) 募集や採用条件(男女別)

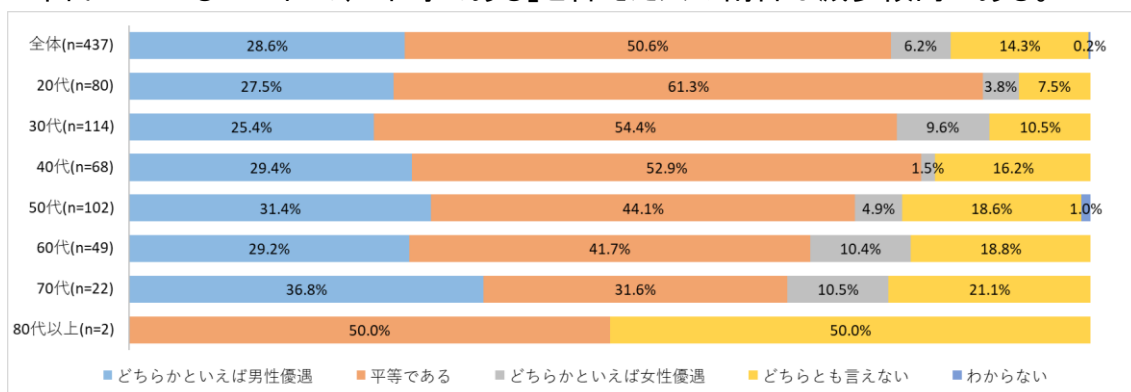
「平等である」と答えた人の割合が最も高い。一方、男性は女性に比べ、「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が17.8ポイント高かった。



(2) 募集や採用条件(年代別)

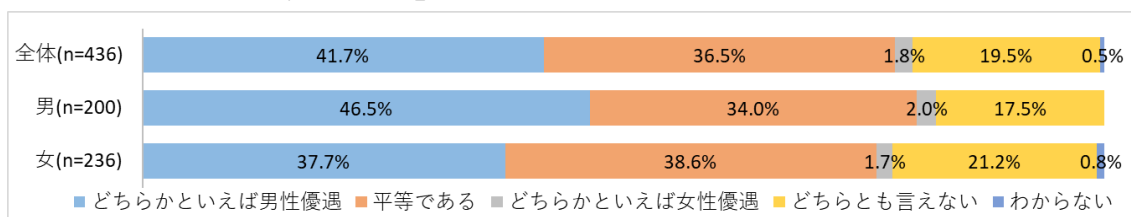
年代別では、若い年代ほど「平等である」と答えた人の割合が多い。

年代が上がるにつれて、「平等である」と答えた人の割合は減少傾向にある。



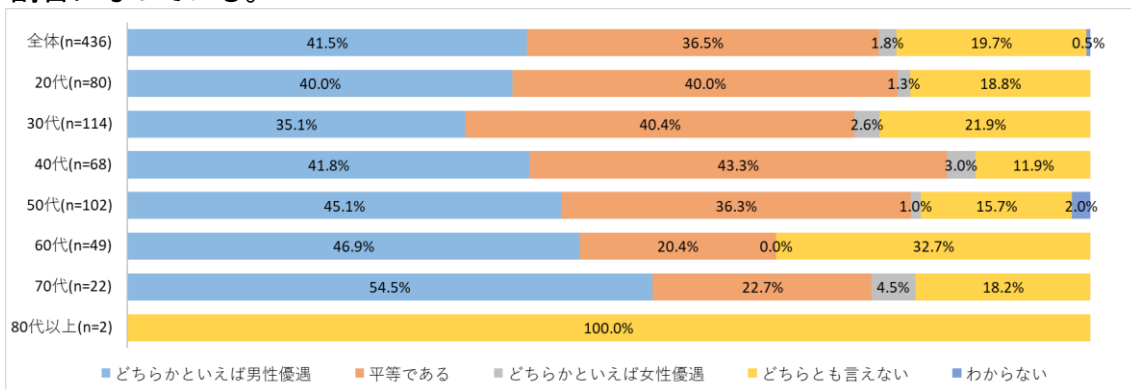
(3) 昇進・昇格(男女別)

「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が最も高い。



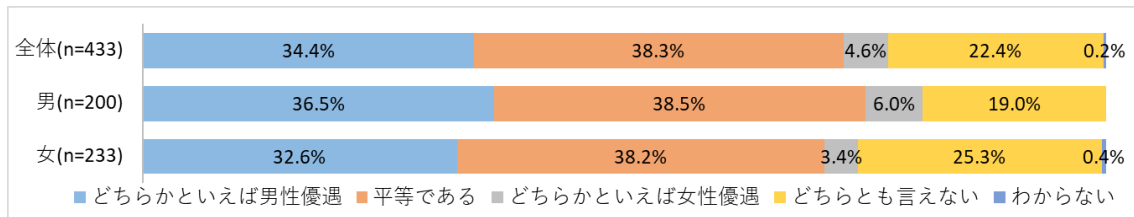
(4) 昇進・昇格(年代別)

年代が上がるにつれて、「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が増加しているが、20代でも「平等である」と答えたのは、「どちらかといえば男性優遇」と同じ割合になっている。



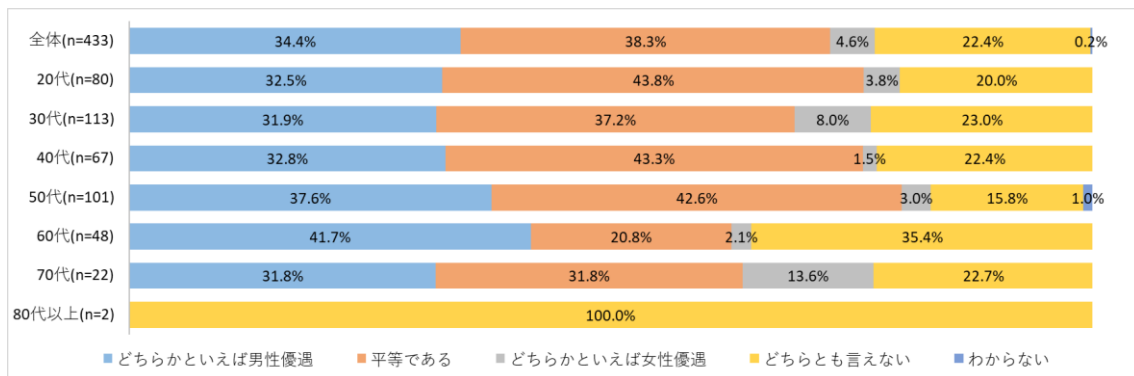
(5) 人事配置(男女別)

「平等である」と答えた人の割合が最も高いが、「どちらかといえば男性優遇」と答えた人も高い割合となっている。



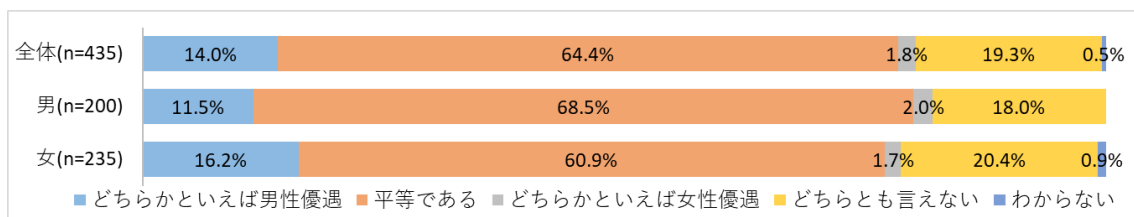
(6) 人事配置(年代別)

50代以下では、「平等である」と答えた割合が最も高い。中でも、20代が「平等である」と答えた割合が最も高い。



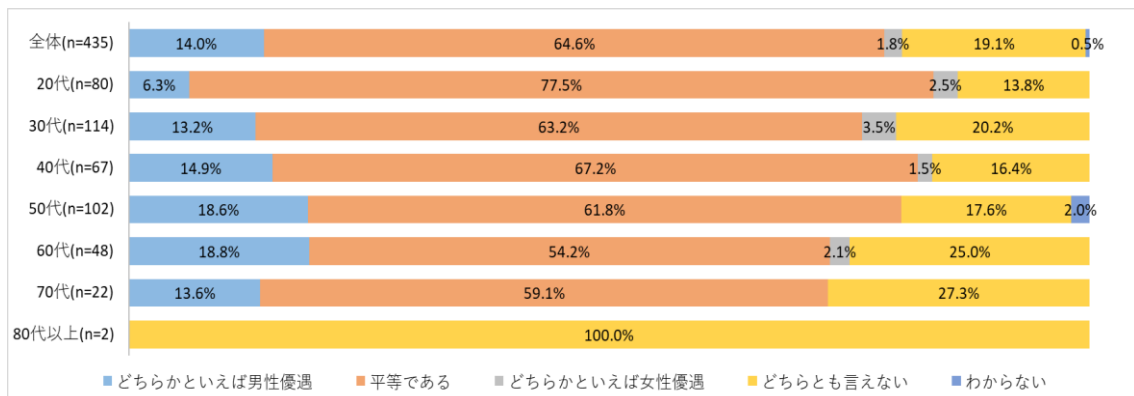
(7) 教育や研修制度(男女別)

「平等である」と答えた人の割合が最も高い。



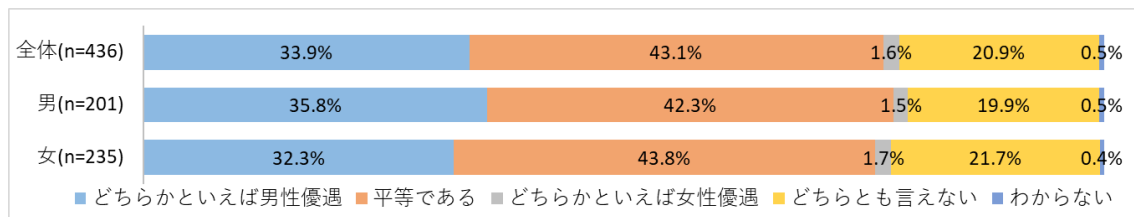
(8) 教育や研修制度(年代別)

年代が上がるほど、「平等である」と答えた人の割合が減少する傾向が見られる。



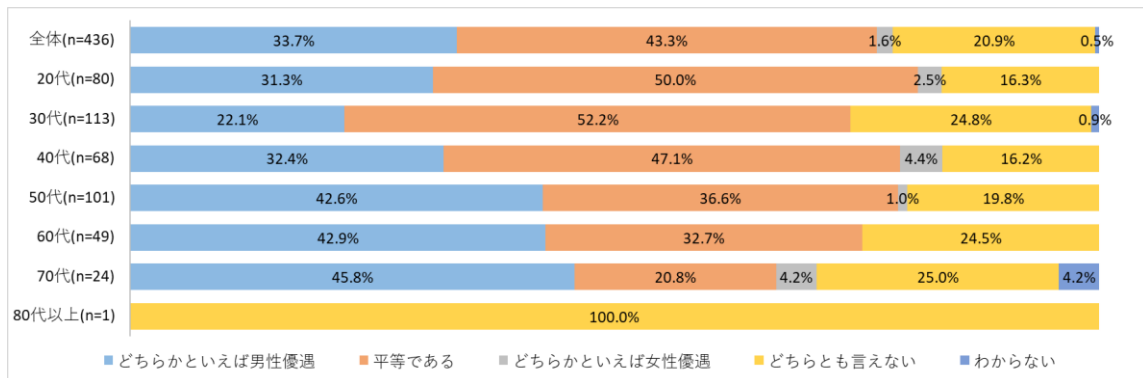
(9) 賃金(男女別)

「平等である」と答えた人の割合が最も高いが、「どちらかといえば男性優遇」と答えた人も全体1／3程度の割合となっている。



(10) 賃金(年代別)

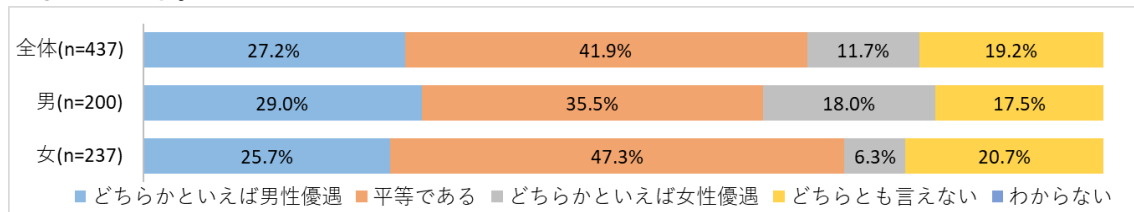
年代が上がるにつれて「平等である」と答えた人の割合が低くなっている。



(11) 仕事内容(男女別)

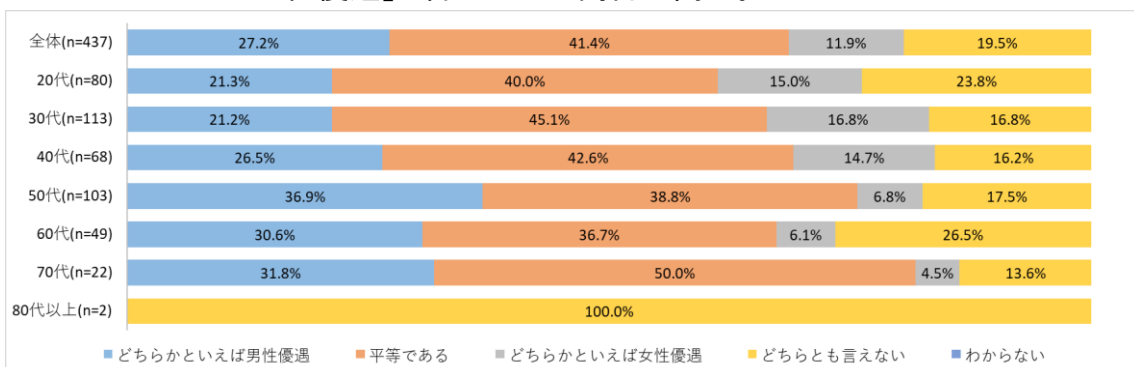
女性が「平等である」と回答した人の割合は、男性の回答に比べ約12ポイント多い。

男性は「どちらかといえば女性優遇」と答える割合が、他の項目に比べて高い割合となっている。



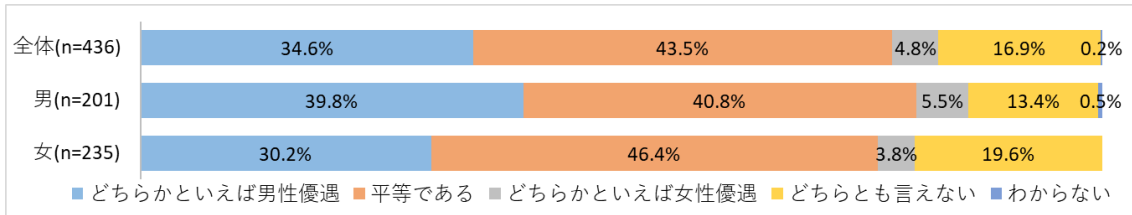
(12) 仕事内容(年代別)

40代以下の年代で「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が減る一方、「どちらかといえば女性優遇」と答えた人の割合が高い。



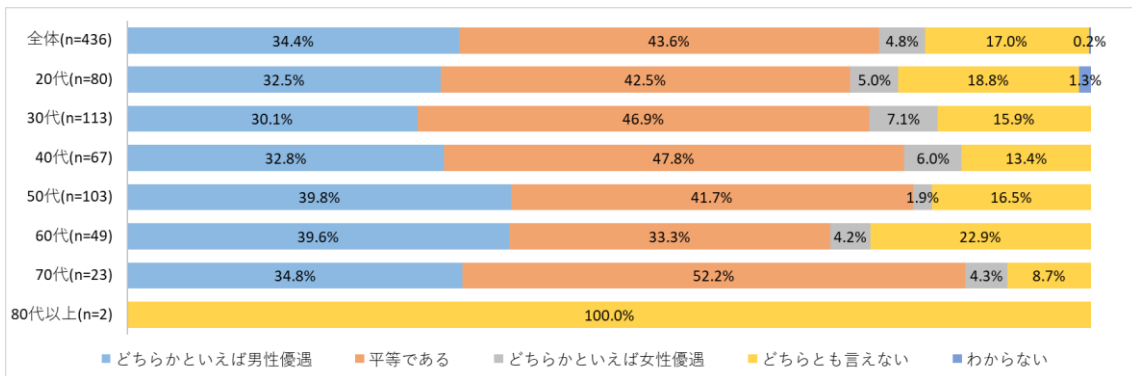
(13) 全体として(男女別)

男性に比べ、女性の方が「平等である」と回答した割合が高い。



(14) 全体として(年代別)

「平等である」と答えた人の割合が最も高いが、「どちらかといえば男性優遇」と答えた人も30%以上を占めている。

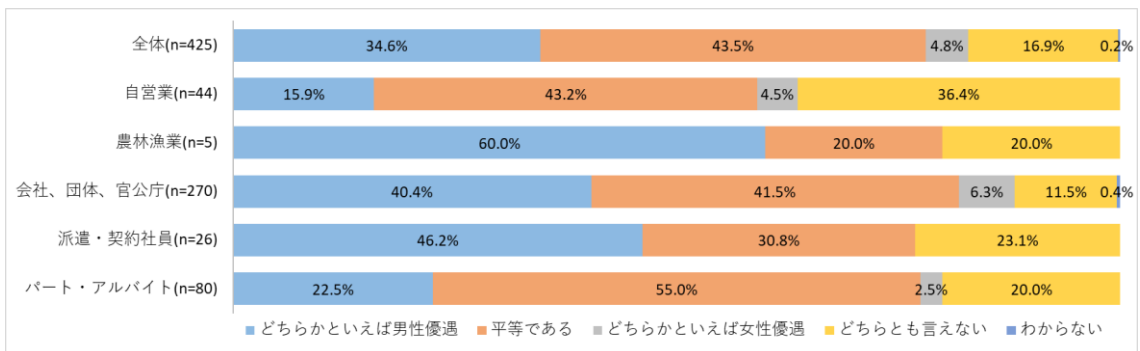


(15) 全体として(職業別)

自営業では、「平等である」、「どちらとも言えない」と答えた人の割合が高い。

農林漁業では、60%の人が「どちらかといえば男性優遇」と答えている。

派遣・契約社員では、「どちらかといえば男性優遇」と答えた人の割合が最も高く、パート・アルバイトの人では、「平等である」と答えた割合が最も高い。



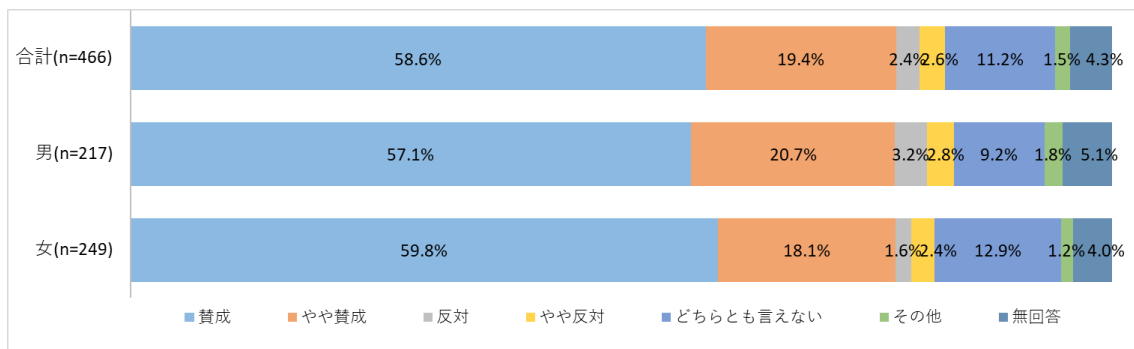
●問6. 女性が管理職につくことについて

女性が管理職につくことをどう思いますか。
あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

1. 女性が管理職につくことをどう思いますか(男女別)

「賛成」と「やや賛成」と答えた人が約8割を占めている。

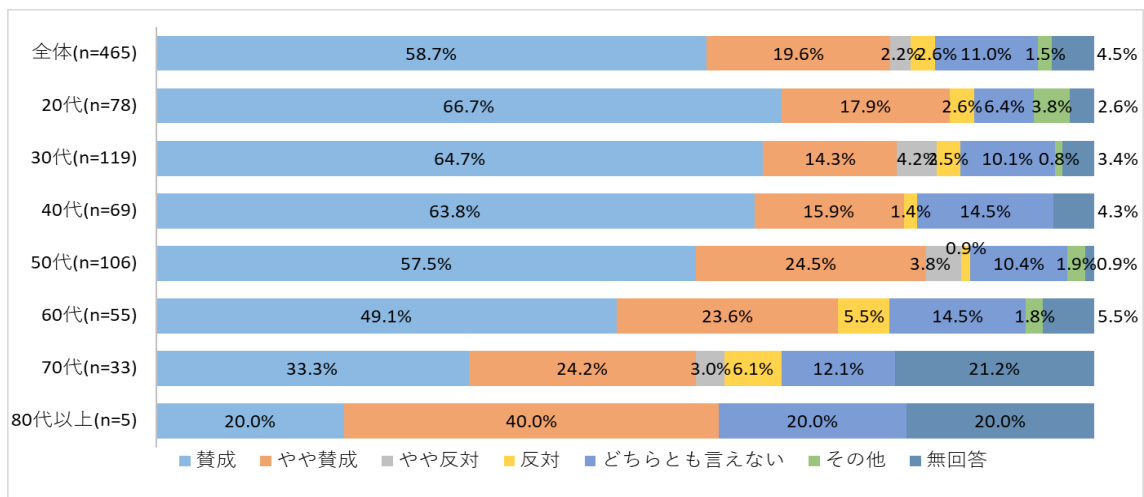
女性に比べて男性の方が、女性が管理職につくことについて、賛成と答えた人の割合が高い。



2. 女性が管理職につくことをどう思いますか(年代別)

若い年代ほど「賛成」と答えた人の割合が高い。一方、年代が上がるほど「やや賛成」と答える人の割合が高い。

「反対」と答えた人の割合は、全体では2.6%となっている。



自由記載欄

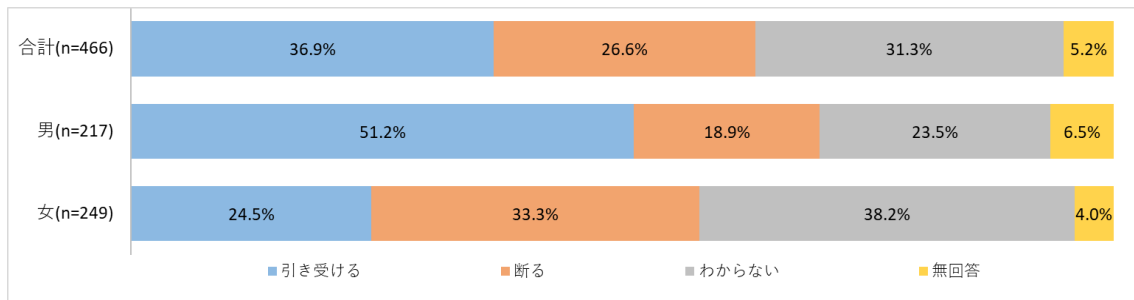
- ・男女ともにマネジメント能力があり、本人が希望するのであればよいと思う(30代女性)
- ・能力があるなら賛成だが、女性優遇的なことには反対(20代男性)
- ・まだ男性の上で管理職は難しい。日本では、女性がもっと男性より知識や先見的なものの見方を勉強し、身につけないと難しい。(60代女性)

●問7. あなたが管理職につくことについて

あなたが管理職への昇進を打診されたらどうしますか。
あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

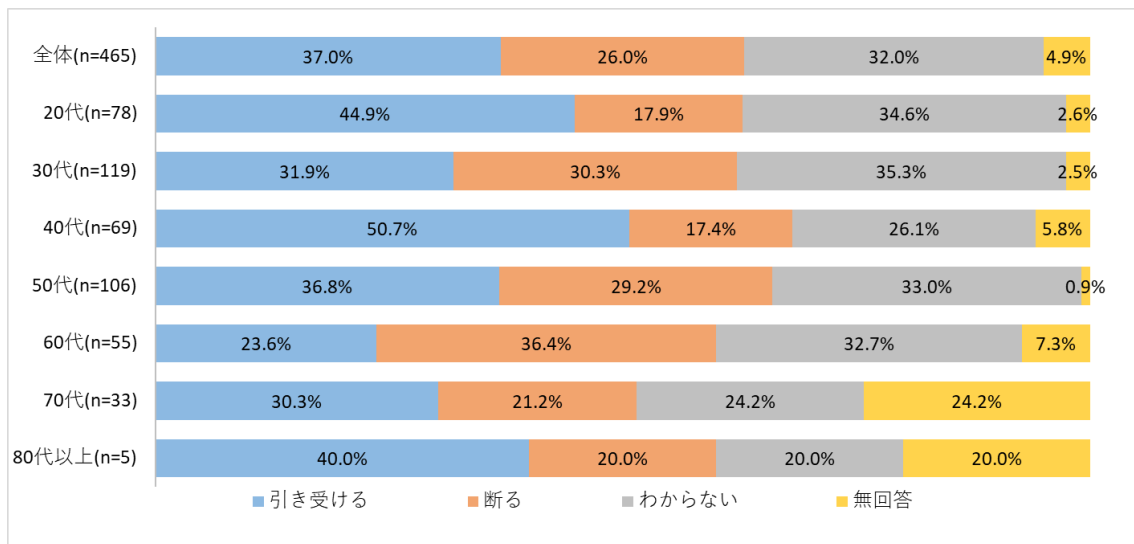
1. あなたが管理職への昇進を打診されたらどうしますか(男女別)

女性は「わからない」と答えた人の割合が最も高い。一方、男性は「引き受ける」と答えた人の割合が最も高かった。



2. あなたが管理職への昇進を打診されたらどうしますか(年代別)

20代と40代で、「引き受ける」と答えた人に比べ、50代と30代で「引き受ける」と答えた人は低い割合にとどまった。



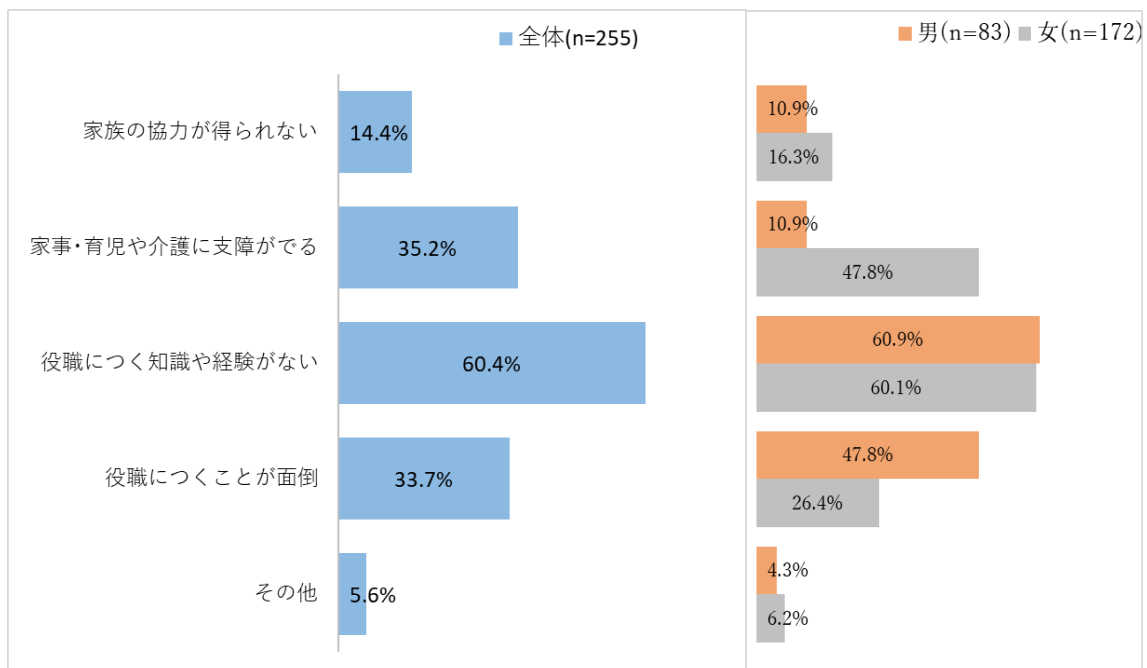
●問7-1. あなたが管理職へつくことについて

問7. 管理職への昇進を打診されたらどうしますか。で、「断る」、「わからない・その他」と答えた方にお聞きします、あなたの考えに近いものを選んでください。

1. 管理職につくことについて、「断る」「わからない・その他」と答えた理由(男女別)

男女とも「役職につく知識や経験がない」と答えた人の割合が最も高い。

次点では、男性は「役職につくことが面倒」、女性は「家事・育児や介護に支障がでる」と答えた人の割合が高い。



※複数回答可のため、合計 100%を超えている(回答: 合計 403 件)

自由記載欄

- ・家族と相談して決めたい(30 代女性)
- ・割に合わないから
- ・自信がないから
- ・賃金が安いから

●問8.

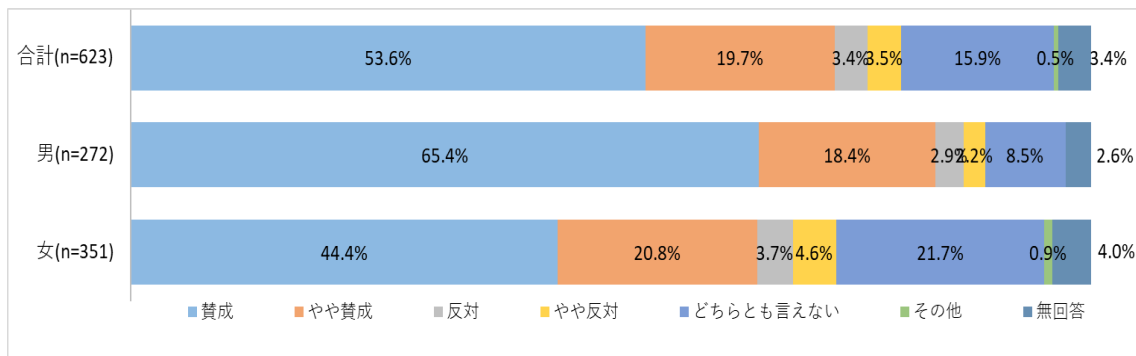
女性が区長やPTA会長などの役職につくことについて

女性が区長やPTA会長などの役職につくことをどう思いますか。
あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

1. 女性が区長やPTA会長などの役職につくことについて(男女別)

「賛成」、「やや賛成」と答えた人は、全体で約70%を占めており、男性が「賛成」と答えた割合は、女性に比べて高い。

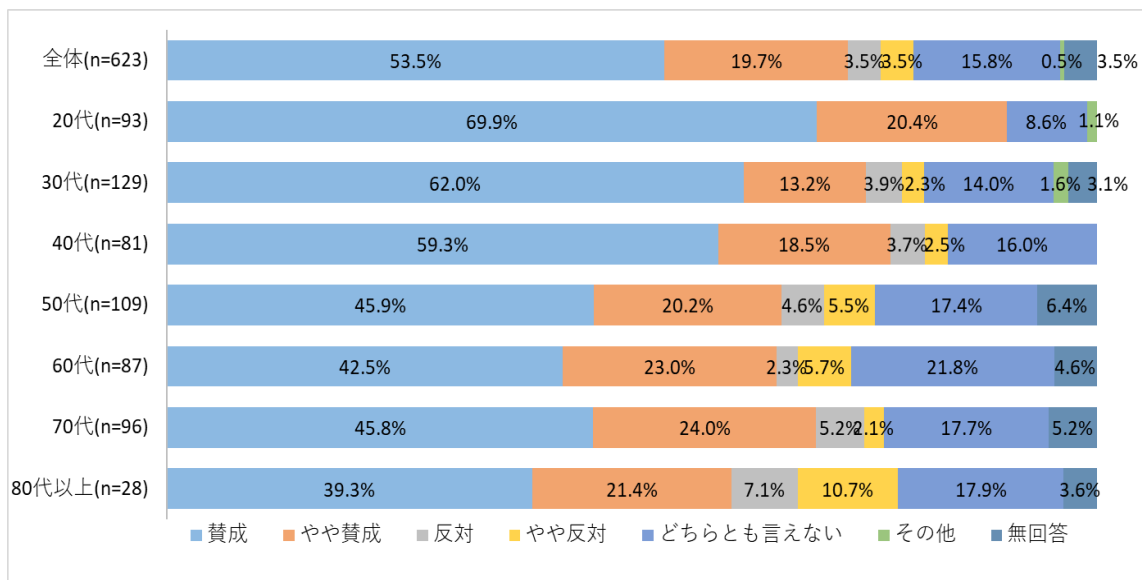
女性は、男性に比べて「どちらとも言えない」と答えた人の割合が高い。



2. 女性が区長やPTA会長などの役職につくことについて(年代別)

若い年代ほど「賛成」と答える割合が高いが、年代が上がるほど「やや賛成」「どちらとも言えない」と答える割合が高くなった。

「反対」、「やや反対」と答えた割合は、年代が上がるほど増加傾向にあり、80代以上では、約18%を占めている。



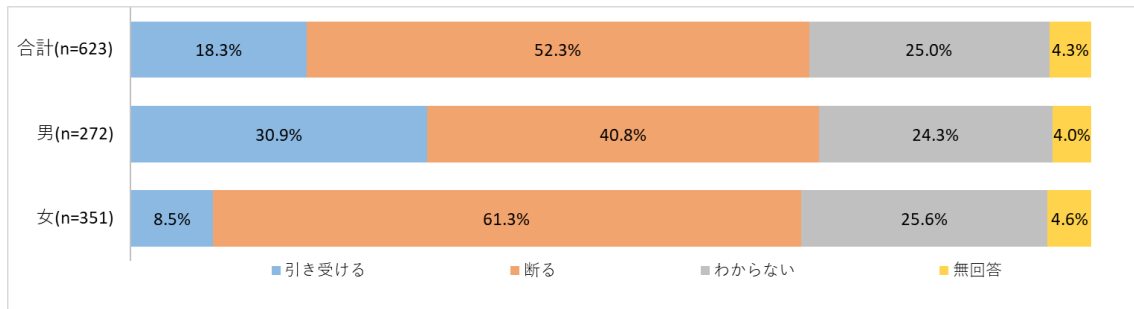
●問9. あなたが区長やPTA会長などの役職に推薦された時の対応

あなたが区長やPTA会長などの役職に推薦されたらどうしますか。

あなたが区長やPTA会長などの役職に推薦されたらどうしますか(男女別)

男女とも「断る」と答えた人の割合が最も高くなった。

女性より男性の方が「引き受ける」と答えた人の割合が高い結果となった。



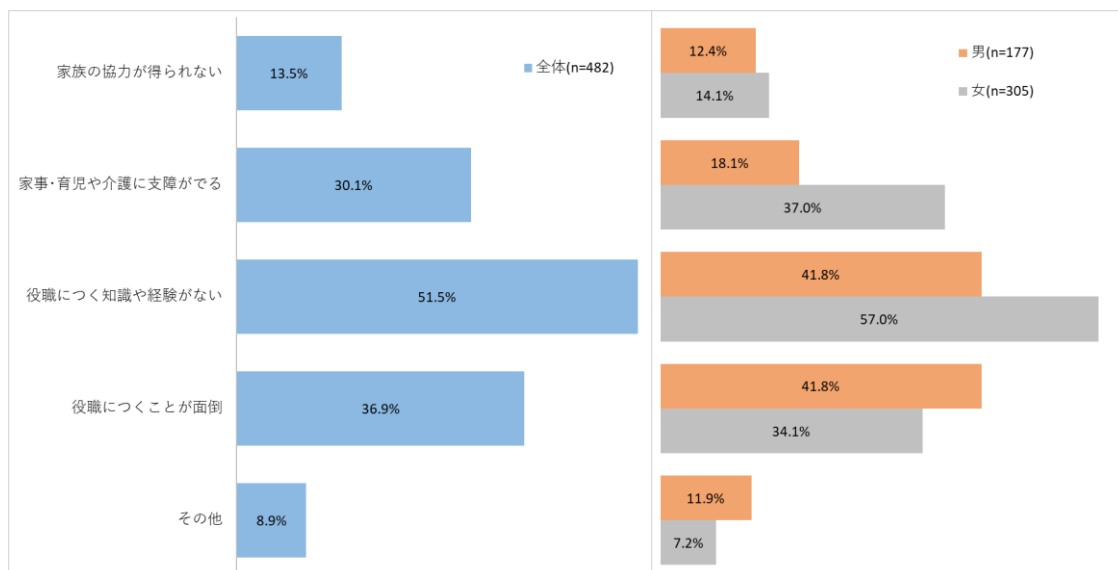
●問9-1. 区長やPTA会長などの役職に推薦された時の対応

問9で、「断る」、「わからない・その他」と答えた方にお尋ねします。その理由は何ですか。あなたの考えに近いものを選んでください。

「断る」「分からない・その他」と答えた理由(男女別)

全体では、「役職につく知識や経験がない」と答えた人の割合が最も高い。

男性では、「役職につくことが面倒」が、同率で高い割合を占めている。一方、女性は「家事・育児や介護に支障が出る」と答えた人が多い結果となった。



※複数回答可のため、合計が100%を超えている(回答:合計 679 件)

自由記載欄

- ・これまでの田舎の考え方では、女性が役職についてもうまいかなと思う(30 代女性)
- ・女のくせにとかいう風習がある町だから、男の人の上に立つことは難しい(50 代女性)
- ・男性優位と考えている年配者の方々の反感を買うから(50 代女性)
- ・何かを進めようとするにあたって、女性の説得で年配の男性は納得しないから(50 代女性)
- ・役職の順番をみんなが守れば引き受けるが、力仕事も多いので女性では難しい(50 代女性)
- ・区長になると肉体的な仕事があるため、差別ではなく、個別でできないかも(60 代女性)
- ・死別して家庭内で大変なのに、地域柄、人数が少なくて PTA(子供会含む)が回ってくるのはどうかと思う。時間的に余裕もないが、断れない環境なので、どうかと思う(30 代女性)
- ・物事を進めるにあたり、大なり小なりのバッシングを受けることになるため、それに耐えられる自信がない(50 代女性)
- ・自分しかできないというようなやる意義が感じればやるかもしれない(20 代男性)
- ・子育て、地域での生活、付き合いにおいて、役職をとことはリスクしか見えない(40 代女性)
- ・仕事が忙しいから(「自営業だから」含む) ・経験済だから ・高齢だから

●問 10. DVの経験や見聞きしたことがあるかについて

DVは人権を著しく侵害する重大な問題です。

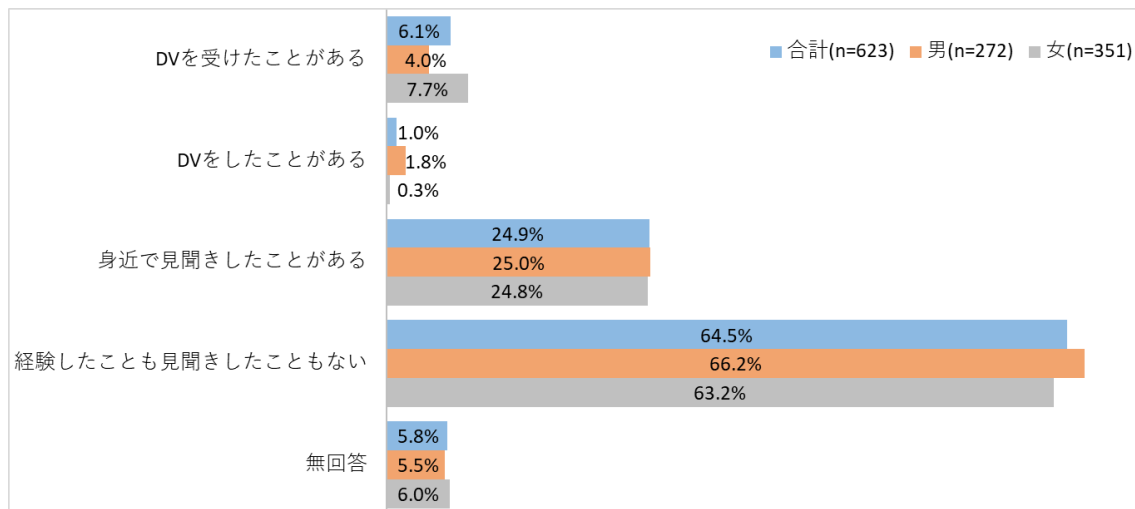
このようなDVを、この1年間に経験または身近で見聞きしたことがありますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

1. DVの経験や見聞きしたことがあるかについて(男女別)

「DVを受けたことがある」と答えた人の割合は、全体で6.1%だったが、「DVをしたことがある」と答えた人の割合は、全体で1.0%となった。

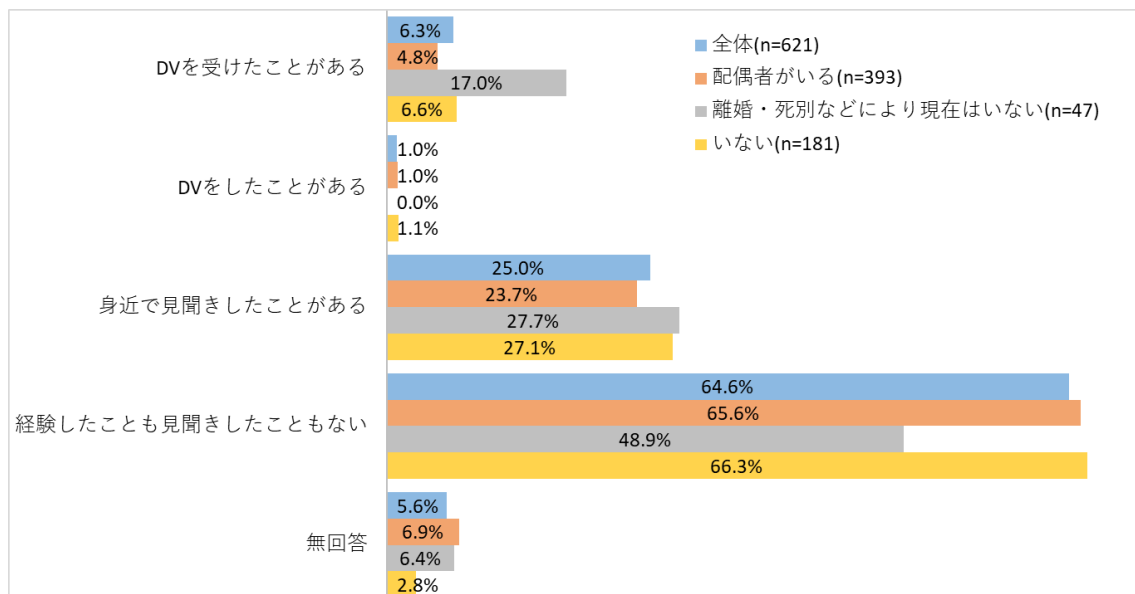
女性で「DVを受けたことがある」と答えた人の割合は、男性に比べ3.7ポイント高くなっている。



※複数回答可のため、合計が100%を超えている(回答数: 合計 637)

2. DVの経験や見聞きしたことがあるかについて(世帯別)

配偶者がいる人に比べ、配偶者がいない人の方が「DVを受けたことがある」と答えた割合が高い。



●問 10－1. DVを受けた時の相談先について

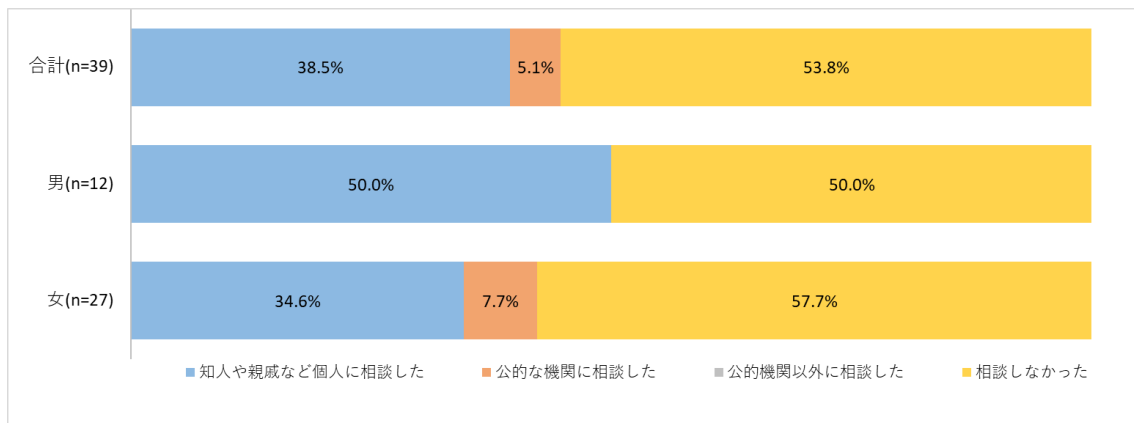
「DVを受けたことがある」と答えた方にお尋ねします。

DVを受けたとき、誰かに相談しましたか。当てはまるものを1つ選んでください。

1. DVを受けたときの相談先について

「相談しなかった」と答えた人の割合が最も高くなり、「知人や親戚など個人に相談した」と答えた人も高い割合となっている。

「公的な機関に相談した」と答えた人は、男性は0%、女性は7.7%となった。



理由等記載欄

【相談した機関】

- ・警察、弁護士（50代女性）

【相談しなかった理由（女性）】

- ・言葉だけだったので、真摯に聞いてもらえないと思うから。
- ・相談したところで問題は解決しないから。更に失望するだけ。
- ・相談しても何も変わらないと思う。離婚に踏み切れない。子供の教育費用の問題がある。
- ・自分がその時我慢すれば何とかなると思ったから。
- ・言葉の暴力で時々だけだから。もう何十年も同じ状態で言われているので。
- ・相談する勇気がない。
- ・配偶者の気持ちも分かったため。

【相談しなかった理由（男性）】

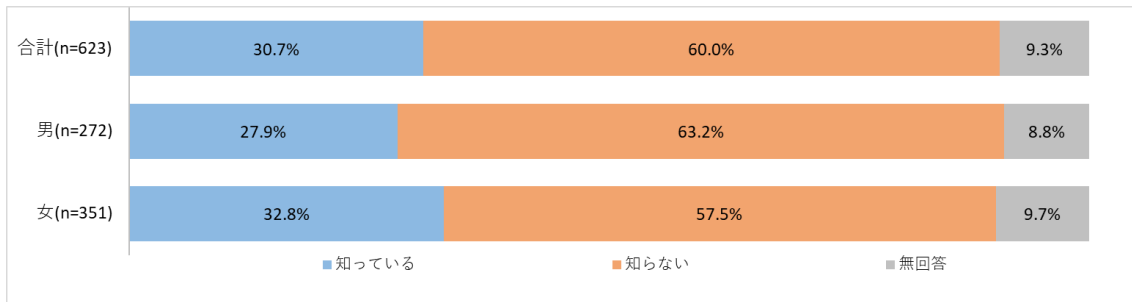
- ・相談をするところがない。
- ・相談すると最終的に自分が困ると思ったから。

●問 1 1. DV 被害の相談先について

DV の被害について、あなたはどこに相談すればいいか知っていますか。

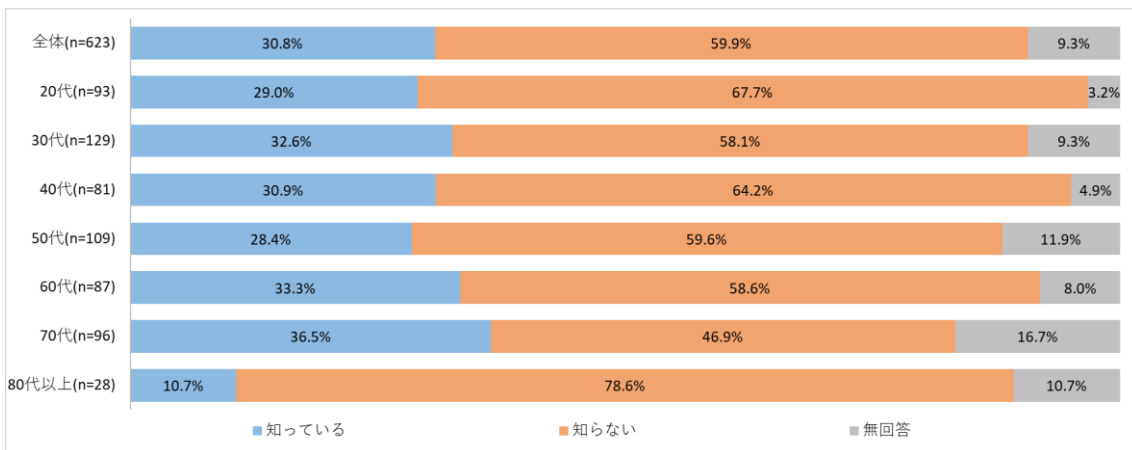
1. DV 被害の相談先について知っていますか。(男女別)

女性の方が「知っている」と答えた人の割合が高い。



2. DV 被害の相談先について知っていますか。(年代別)

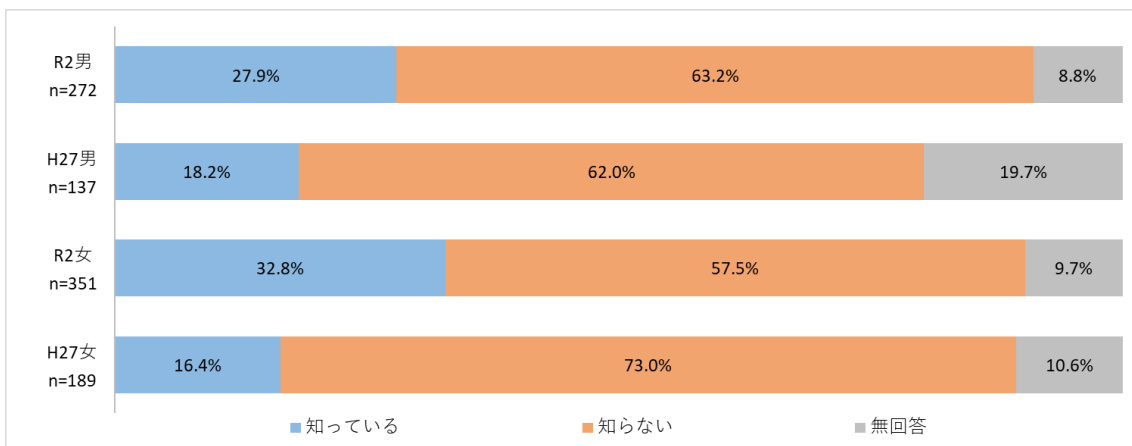
年代が上がるにつれ「知っている」と答えた人の割合が増加する傾向が見られた。



3. DV 被害の相談先について知っていますか。(H27 年調査との比較)

男女とも「知っている」と答えた人の割合が大きく増加した。

特に、女性で「知っている」と答えた割合は2倍に増えた。



●問 1 2. 男女共同参画社会の実現について

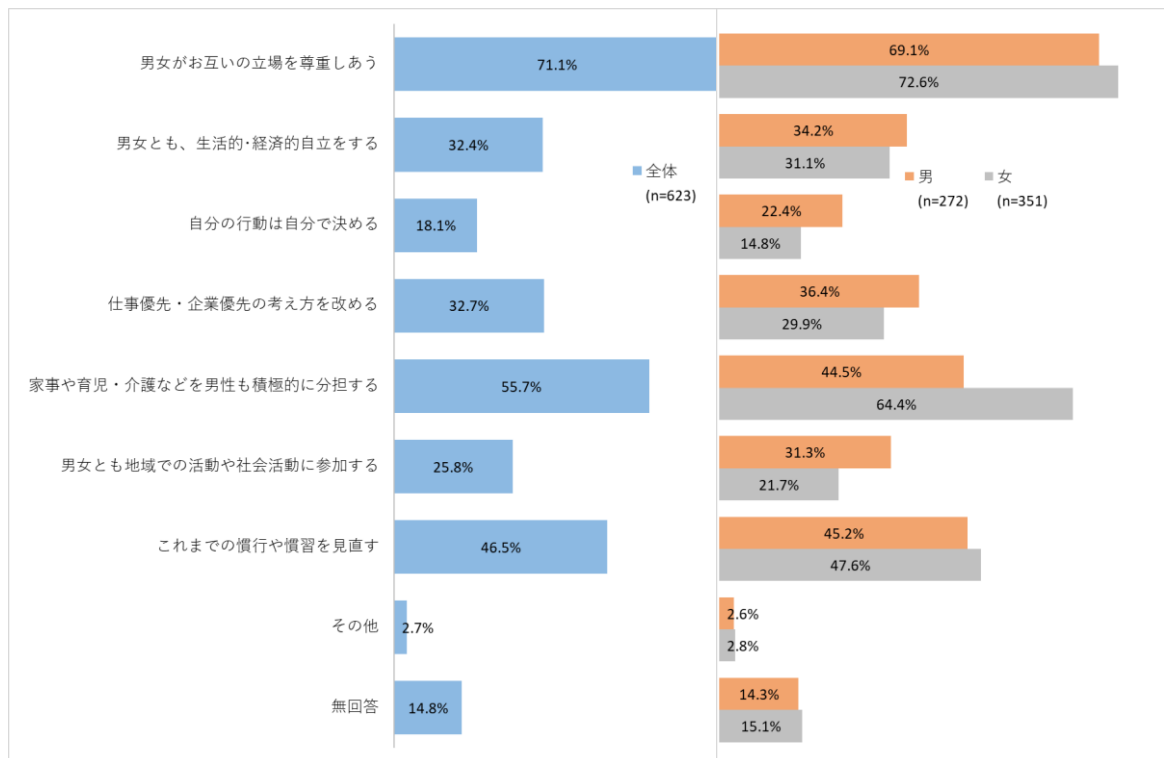
男女共同参画社会とは「男性も女性も、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会」を言いますが、実現するために必要と思われるものは何ですか。

あなたの考えに近いものを3つ選んでください。

1. 男女共同参画社会の実現に必要なと思われるもの(男女別)

男女とも「男女がお互いの立場を尊重しあう」と答えた人の割合が最も多かった。

また男女とも2番と3番に「家事や育児・介護などを男性も積極的に分担する」と「これまでの慣行や慣習を見直す」を挙げており、男女共同参画社会の実現に必要なことについて、必要と思われる項目の上位3項目は同じとなった。



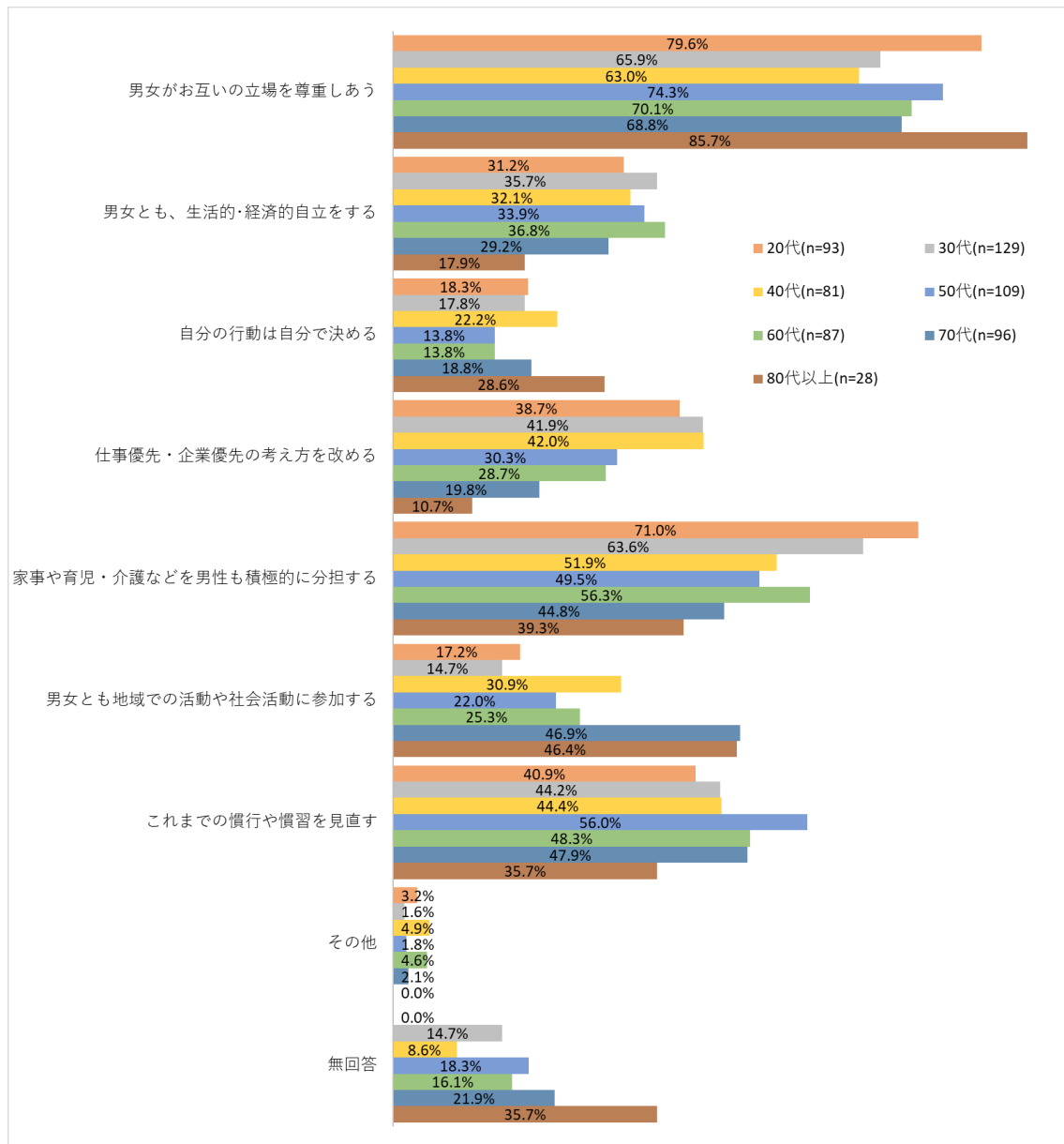
※複数回答可のため、合計が100%を超えている(回答数: 合計 1,869)

2. 男女共同参画社会の実現に必要なと思われるもの(年代別)

20代から40代は、「家事や育児・介護などを男性も積極的に分担する」、「仕事優先・企業優先の考え方を改める」と答える人の割合が高い傾向があり、家庭での過ごし方や家族との時間を優先することが大切と考えている傾向がある。

50代以降は、「男女がお互いの立場を尊重しあう」や「これまでの慣行や慣習を見直す」と答える割合が高い傾向があり、相手への思いやりや現在の慣習を見直すなど、考え方を変えることが大切と考えている傾向がある。

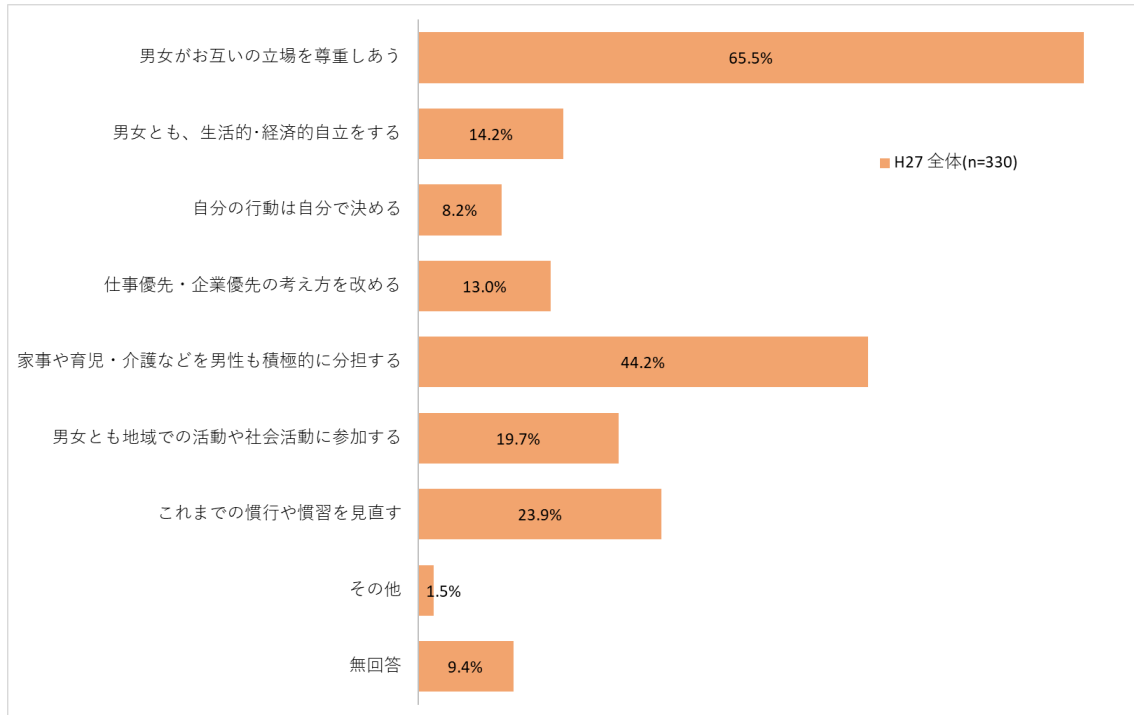
70代以上の世代では、「仕事優先・企業優先の考え方を改める」と答えた人の割合が減少し、「地域での活動や社会活動に参加する」と答える人の割合が高い。



※複数回答可のため、合計が100%を超えている(回答数: 合計 1,869)

3. 男女共同参画社会の実現に必要と思われるもの(H27 年調査)

令和2年調査と回答数が異なるため、参考として掲載



※令和2年度は「3つ選択」、平成27年度は「2つ選択」する回答方式。

自由記載欄

- ・女性の労働賃金を上げて、男性との格差がないようにすること(20代男性)
- ・金銭面での将来の負担を減らす。税金が高いのに国民年金の額が低い(30代男性)
- ・男性の育児休暇が当たり前になる(40代男性)
- ・無理な残業などによる家庭への負担を減らす(20代男性)
- ・男性は仕事優先を理由にし、女性は子供がと育児を理由にする場面が多くみられる昔からの意識改革が必要。誰にでも優しくって困難だが根深い課題だと思う
(30代男性)
- ・男性の意識改革が最も必要。家事育児は女性がするもの(40代男性)
- ・自分の考えを周りに話すこと(40代男性)

●問 13. 「ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の実現について

「ワーク・ライフ・バランス」を実現するために必要なことや行政に望むことは何ですか。あなたの考えに近いものを3つ選んでください。

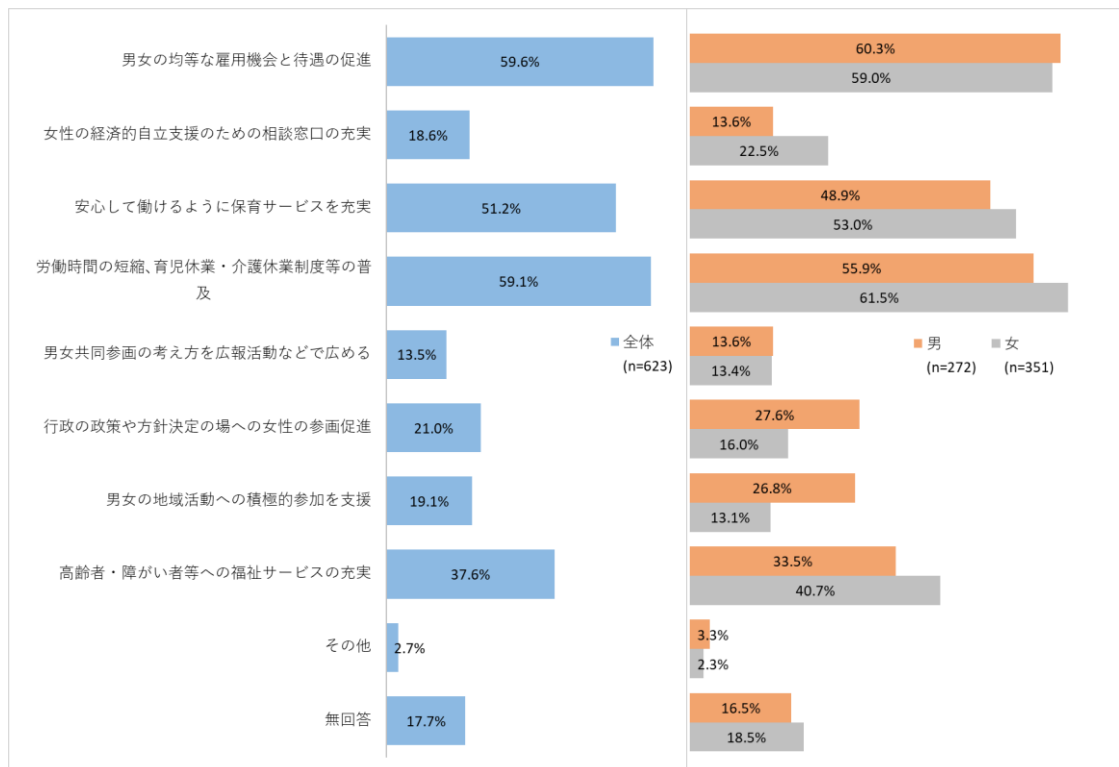
1. 「ワーク・ライフ・バランス」の実現に必要なことや行政に望むことについて

(男女別)

男女とも「男女の均等な雇用機会と待遇の促進」、「労働時間の短縮、育児休業・介護休業制度等の普及」と答えた人の割合が高い。

その他の項目では、男性は、「行政の施策や方針決定の場への女性の参画促進」、「男女の地域活動への積極的参加を支援」の項目で、女性に比べ高い割合となった。

女性は、「女性の経済的自立支援のための相談窓口の充実」、「高齢者・障がい者等への福祉サービスの充実」の項目で、男性に比べ高い割合となった。



※複数回答可のため、合計が100%を超えている(回答数: 合計 1,869)

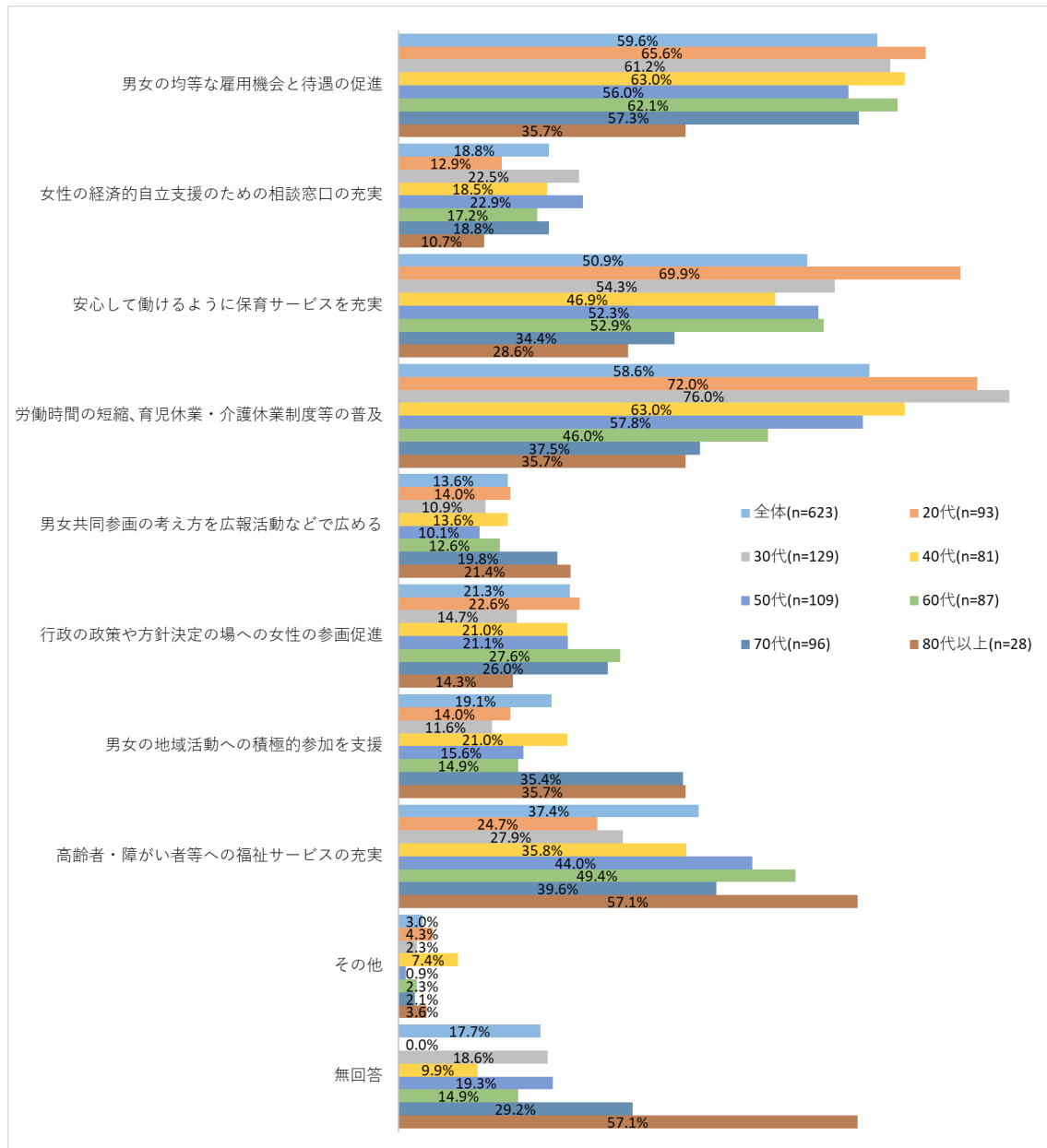
2. 「ワーク・ライフ・バランス」の実現に必要なことや行政に望むことについて

(年代別)

全ての年代を通じて「男女の均等な雇用機会と待遇の促進」と答える人が多い。

30代以下の年代は、「安心して働けるように保育サービスを充実」「労働時間の短縮、育児休業・介護休業制度等の普及」と答える人の割合が高かった。

40代以上の年代は、「高齢者・障がい者等への福祉サービスの充実」が増加する傾向にある。年代ごとに求めることに違いがあり、必要なことや行政に望むことにそれぞれ挙げられている。

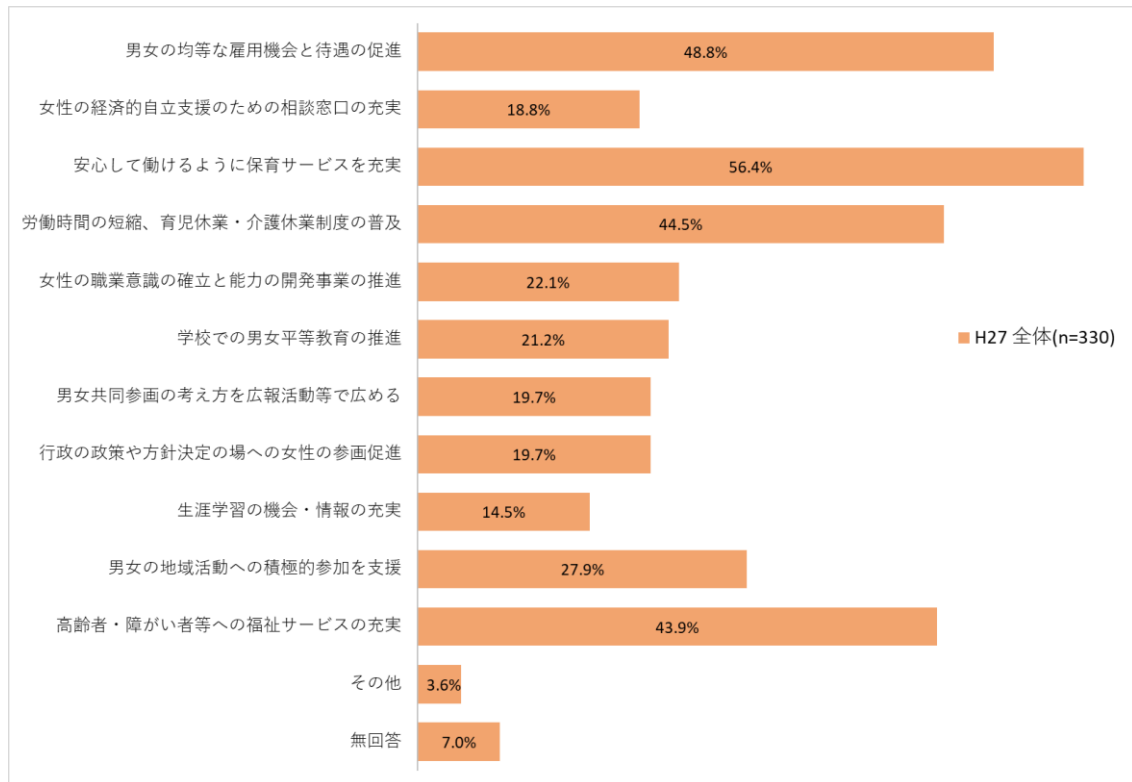


※複数回答可のため、合計が100%を超えている(回答数: 合計 1,869)

3. 「ワーク・ライフ・バランス」の実現に必要なことや行政に望むことについて

(H27 年調査)

令和2年調査と質問項目及び回答数が異なるため、参考として掲載



※令和2年度調査は、平成27年度調査にあった「女性の職業意識の確立と能力の開発事業の推進」、「学校での男女平等教育の推進」、「生涯学習の機会・情報の充実」の項目がなくなった。

※令和2年調査は3つ選択する回答方法。平成27年はいくつでも選択可能。

自由記載欄

- ・優良企業には、市独自の補助金を作り促進する(40代女性)
- ・女性の雇用に関しては、出産や育児休業が一番ネックになる。女性だけの会社や家において子育てしながら仕事できる環境の普及も必要だと思う(20代女性)
- ・仕事がいくら時短されても、女性の収入は減り、家庭内の仕事は変わらず、そこに幸せを感じない限り女性のワーク・ライフ・バランスは成り立たない(40代女性)
- ・男女が、平等に家事や育児をする法律を作る(60代女性)
- ・男性の生理と出産の疑似体験。家事をしない父。男性は女性の、女性は男性の苦労を身をもって体験すべき。(20代女性)
- ・市民に愛されるまちづくり(40代男性)

資料

■ 日常の買い物

選択項目	全体(n=389)	20代(n=19)	30代(n=76)	40代(n=63)	50代(n=79)	60代(n=67)	70代(n=69)	80代以上 (n=16)
どちらかといえば夫の役割	4.4%	0.0%	7.9%	1.6%	5.1%	3.0%	1.4%	17.6%
夫婦同じ程度の役割	22.4%	26.3%	27.6%	15.9%	15.2%	22.7%	33.3%	5.9%
どちらかといえば妻の役割	68.1%	68.4%	63.2%	76.2%	77.2%	68.2%	56.5%	64.7%
家族で分担	4.1%	5.3%	0.0%	6.3%	1.3%	4.5%	8.7%	5.9%
わからない その他	0.8%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.3%	0.0%	0.0%	0.0%	1.3%	1.5%	0.0%	5.9%

■ 介護や看病

選択項目	全体(n=389)	20代(n=19)	30代(n=76)	40代(n=63)	50代(n=79)	60代(n=67)	70代(n=69)	80代以上 (n=16)
どちらかといえば夫の役割	3.1%	0.0%	5.3%	0.0%	6.3%	1.5%	2.9%	0.0%
夫婦同じ程度の役割	13.1%	26.3%	7.9%	15.9%	12.7%	15.2%	11.6%	11.8%
どちらかといえば妻の役割	43.4%	31.6%	47.4%	54.0%	45.6%	45.5%	30.4%	35.3%
家族で分担	7.5%	5.3%	5.3%	3.2%	8.9%	4.5%	13.0%	17.6%
わからない その他	27.8%	36.8%	32.9%	27.0%	26.6%	28.8%	26.1%	5.9%
無回答	5.1%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	4.5%	15.9%	29.4%

■ 育児

選択項目	全体(n=389)	20代(n=19)	30代(n=76)	40代(n=63)	50代(n=79)	60代(n=67)	70代(n=69)	80代以上 (n=16)
どちらかといえば夫の役割	27.5%	21.1%	32.9%	23.8%	29.1%	28.8%	23.2%	29.4%
夫婦同じ程度の役割	21.6%	26.3%	30.3%	23.8%	20.3%	21.2%	15.9%	0.0%
どちらかといえば妻の役割	23.1%	15.8%	17.1%	34.9%	32.9%	19.7%	13.0%	23.5%
家族で分担	8.7%	10.5%	1.3%	7.9%	7.6%	16.7%	13.0%	0.0%
わからない その他	13.4%	26.3%	15.8%	9.5%	10.1%	9.1%	21.7%	0.0%
無回答	5.7%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	4.5%	13.0%	47.1%

■ PTAや地域活動への参加

選択項目	全体(n=389)	20代(n=19)	30代(n=76)	40代(n=63)	50代(n=79)	60代(n=67)	70代(n=69)	80代以上 (n=16)
どちらかといえば夫の役割	27.5%	21.1%	32.9%	23.8%	29.1%	28.8%	23.2%	29.4%
夫婦同じ程度の役割	21.6%	26.3%	30.3%	23.8%	20.3%	21.2%	15.9%	0.0%
どちらかといえば妻の役割	23.1%	15.8%	17.1%	34.9%	32.9%	19.7%	13.0%	23.5%
家族で分担	8.7%	10.5%	1.3%	7.9%	7.6%	16.7%	13.0%	0.0%
わからない その他	13.4%	26.3%	15.8%	9.5%	10.1%	9.1%	21.7%	0.0%
無回答	5.7%	0.0%	2.6%	0.0%	0.0%	4.5%	13.0%	47.1%

問4. 男女が共に働き続けるために必要な対策について

■男女が共に働き続けるために必要な対策(3つ選択)

選択項目	全体 (n=623)	男 (n=272)	女 (n=351)
男女とも育児休業・介護休暇制度を取得しやすくする環境づくり	59.1%	62.1%	56.7%
介護・育児制度など福祉サービスを充実	48.6%	46.3%	50.4%
相談窓口「メンタルヘルス(心の健康)など」を設置	10.1%	12.5%	8.3%
職場における男女差別の是正	26.2%	27.9%	24.8%
出産・育児などによる退職者の再雇用制度の普及	36.6%	37.9%	35.6%
在宅勤務やフレックスタイム(自由勤務時間制)の導入	33.2%	33.5%	33.0%
労働時間の短縮	29.5%	28.7%	30.2%
中途採用や定年退職者の再雇用制度の拡大	35.8%	32.0%	38.7%
その他	3.0%	2.9%	3.1%
無回答	17.8%	16.2%	19.1%

問5. あなたの職場の男女平等の環境や考え方について

■募集や採用条件

選択項目	合計 (n=466)	男 (n=217)	女 (n=249)
どちらかといえば男性優遇	28.9%	38.5%	20.7%
平等である	50.3%	47.0%	53.6%
どちらかといえば女性優遇	6.2%	4.0%	8.0%
どちらとも言えない	14.4%	10.5%	17.3%
わからない	0.2%	0.0%	0.4%

■昇進・昇格

選択項目	全体 (n=623)	男 (n=272)	女 (n=351)
どちらかといえば男性優遇	41.8%	46.5%	37.7%
平等である	36.3%	34.0%	38.6%
どちらかといえば女性優遇	1.8%	2.0%	1.7%
どちらとも言えない	19.6%	17.5%	21.2%
わからない	0.5%	0.0%	0.8%

■人事配置

選択項目	合計 (n=466)	男 (n=217)	女 (n=249)
どちらかといえば男性優遇	34.5%	36.5%	32.6%
平等である	38.2%	38.5%	38.2%
どちらかといえば女性優遇	4.6%	6.0%	3.4%
どちらとも言えない	22.5%	19.0%	25.3%
わからない	0.2%	0.0%	0.4%

■教育や研修制度

選択項目	合計 (n=466)	男 (n=217)	女 (n=249)
どちらかといえば男性優遇	14.2%	11.5%	16.2%
平等である	64.3%	68.5%	60.9%
どちらかといえば女性優遇	1.8%	2.0%	1.7%
どちらとも言えない	19.2%	18.0%	20.4%
わからない	0.5%	0.0%	0.9%

■賃金

選択項目	合計 (n=466)	男 (n=217)	女 (n=249)
どちらかといえば男性優遇	34.0%	35.8%	32.3%
平等である	43.2%	42.3%	43.8%
どちらかといえば女性優遇	1.6%	1.5%	1.7%
どちらとも言えない	20.8%	19.9%	21.7%
わからない	0.5%	0.5%	0.4%

■仕事内容

選択項目	合計 (n=466)	男 (n=217)	女 (n=249)
どちらかといえば男性優遇	27.3%	29.0%	25.7%
平等である	41.6%	35.5%	47.3%
どちらかといえば女性優遇	11.8%	18.0%	6.3%
どちらとも言えない	19.3%	17.5%	20.7%
わからない	0.0%	0.0%	0.0%

■全体として

選択項目	合計 (n=466)	男 (n=217)	女 (n=249)
どちらかといえば男性優遇	34.6%	39.8%	30.2%
平等である	43.5%	40.8%	46.4%
どちらかといえば女性優遇	4.8%	5.5%	3.8%
どちらとも言えない	16.9%	13.4%	19.6%
わからない	0.2%	0.5%	0.0%

問6. 女性が管理職につくことについて

■女性が管理職につくことについて

選択項目	合計 (n=466)	男 (n=217)	女 (n=249)
賛成	58.6%	57.1%	59.8%
やや賛成	19.4%	20.7%	18.1%
反対	2.4%	3.2%	1.6%
やや反対	2.6%	2.8%	2.4%
どちらとも言えない	11.2%	9.2%	12.9%
その他	1.5%	1.8%	1.2%
無回答	4.3%	5.1%	4.0%

問7. あなたが管理職につくことについて

■あなたが管理職につくことについて

選択項目	合計 (n=466)	男 (n=217)	女 (n=249)
引き受ける	36.9%	51.2%	24.5%
断る	26.6%	18.9%	33.3%
わからない	31.3%	23.5%	38.2%
無回答	5.2%	6.5%	4.0%

問7－1. 問7で「断る」「わからない・その他」と答えた理由

■「断る」「わからない・その他」と答えた理由

選択項目	全体 (n=255)	男 (n=83)	女 (n=172)
家族の協力が得られない	14.4%	10.9%	16.3%
家事・育児や介護に支障がでる	35.2%	10.9%	47.8%
役職につく知識や経験がない	60.4%	60.9%	60.1%
役職につくことが面倒	33.7%	47.8%	26.4%
その他	5.6%	4.3%	6.2%

問8. 女性が区長やPTA会長などの役職につくことについて

■女性が区長やPTA会長などの役職につくことについて

選択項目	全体 (n=623)	男 (n=272)	女 (n=351)
賛成	53.6%	65.4%	44.4%
やや賛成	19.7%	18.4%	20.8%
反対	3.4%	2.9%	3.7%
やや反対	3.5%	2.2%	4.6%
どちらとも言えない	15.9%	8.5%	21.7%
その他	0.5%	0.0%	0.9%
無回答	3.4%	2.6%	4.0%

問9. あなたが区長やPTA会長などの役職につくことについて

■あなたが区長やPTA会長などの役職につくことについて

選択項目	合計 (n=623)	男 (n=272)	女 (n=351)
引き受ける	18.3%	30.9%	8.5%
断る	52.3%	40.8%	61.3%
わからない	25.0%	24.3%	25.6%
無回答	4.3%	4.0%	4.6%

問9－1. 問9で「断る」「わからない・その他」と答えた理由

■「断る」「わからない・その他」と答えた理由

選択項目	全体 (n=482)	男 (n=177)	女 (n=305)
家族の協力が得られない	13.5%	12.4%	14.1%
家事・育児や介護に支障がでる	30.1%	18.1%	37.0%
役職につく知識や経験がない	51.5%	41.8%	57.0%
役職につくことが面倒	36.9%	41.8%	34.1%
その他	8.9%	11.9%	7.2%

問10. DVをこの1年間に経験や見聞きしたことがあるかについて

■DVをこの1年間に経験や見聞きしたことがあるかについて

選択項目	合計 (n=623)	男 (n=272)	女 (n=351)
DVを受けたことがある	6.1%	4.0%	7.7%
DVをしたことがある	1.0%	1.8%	0.3%
身近で見聞きしたことがある	24.9%	25.0%	24.8%
経験したことも見聞きしたこともない	64.5%	66.2%	63.2%
無回答	5.8%	5.5%	6.0%

問10－1. DVを受けたときの相談先について

■DVを受けたときの相談先について

選択項目	合計 (n=39)	男 (n=12)	女 (n=27)
知人や親戚など個人に相談した	38.5%	50.0%	34.6%
公的な機関に相談した	5.1%	0.0%	7.7%
公的機関以外に相談した	0.0%	0.0%	0.0%
相談しなかった	53.8%	50.0%	57.7%

問11. DV被害の相談先について

■DV被害の相談先について

選択項目	全体 (n=623)	男 (n=272)	女 (n=351)
知っている	30.7%	27.9%	32.8%
知らない	60.0%	63.2%	57.5%
無回答	9.3%	8.8%	9.7%

問12. 男女共同参画社会を実現するために必要なことについて

■男女共同参画社会を実現するために必要なことについて(3つ選択)

選択項目	全体 (n=623)	男 (n=272)	女 (n=351)
男女がお互いの立場を尊重しあう	71.1%	69.1%	72.6%
男女とも、生活的・経済的自立をする	32.4%	34.2%	31.1%
自分の行動は自分で決める	18.1%	22.4%	14.8%
仕事優先・企業優先の考え方を改める	32.7%	36.4%	29.9%
家事や育児・介護などを男性も積極的に分担する	55.7%	44.5%	64.4%
男女とも地域での活動や社会活動に参加する	25.8%	31.3%	21.7%
これまでの慣行や慣習を見直す	46.5%	45.2%	47.6%
その他	2.7%	2.6%	2.8%
無回答	14.8%	14.3%	15.1%

■男女共同参画社会を実現するために必要なことについて(3つ選択)

選択項目	全体(n=623)	20代(n=93)	30代(n=129)	40代(n=81)	50代(n=109)	60代(n=87)	70代(n=96)	80代以上 (n=28)
男女がお互いの立場を尊重しあう	70.9%	79.6%	65.9%	63.0%	74.3%	70.1%	68.8%	85.7%
男女とも、生活的・経済的自立をする	32.6%	31.2%	35.7%	32.1%	33.9%	36.8%	29.2%	17.9%
自分の行動は自分で決める	17.8%	18.3%	17.8%	22.2%	13.8%	13.8%	18.8%	28.6%
仕事優先・企業優先の考え方を改める	32.7%	38.7%	41.9%	42.0%	30.3%	28.7%	19.8%	10.7%
家事や育児・介護などを男性も積極的に分担する	55.7%	71.0%	63.6%	51.9%	49.5%	56.3%	44.8%	39.3%
男女とも地域での活動や社会活動に参加する	26.3%	17.2%	14.7%	30.9%	22.0%	25.3%	46.9%	46.4%
これまでの慣行や慣習を見直す	46.5%	40.9%	44.2%	44.4%	56.0%	48.3%	47.9%	35.7%
その他	2.7%	3.2%	1.6%	4.9%	1.8%	4.6%	2.1%	0.0%
無回答	14.6%	0.0%	14.7%	8.6%	18.3%	16.1%	21.9%	35.7%

問13. ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の実現について

■ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の実現について(3つ選択)

選択項目	全体 (n=623)	男 (n=272)	女 (n=351)
男女の均等な雇用機会と待遇の促進	59.6%	60.3%	59.0%
女性の経済的自立支援のための相談窓口の充実	18.6%	13.6%	22.5%
安心して働けるように保育サービスを充実	51.2%	48.9%	53.0%
労働時間の短縮、育児休業・介護休業制度等の普及	59.1%	55.9%	61.5%
男女共同参画の考え方を広報活動などで広める	13.5%	13.6%	13.4%
行政の政策や方針決定の場への女性の参画促進	21.0%	27.6%	16.0%
男女の地域活動への積極的参加を支援	19.1%	26.8%	13.1%
高齢者・障がい者等への福祉サービスの充実	37.6%	33.5%	40.7%
その他	2.7%	3.3%	2.3%
無回答	17.7%	16.5%	18.5%

■ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)」の実現について(3つ選択)

選択項目	全体(n=623)	20代(n=93)	30代(n=129)	40代(n=81)	50代(n=109)	60代(n=87)	70代(n=96)	80代以上 (n=28)
男女の均等な雇用機会と待遇の促進	59.6%	65.6%	61.2%	63.0%	56.0%	62.1%	57.3%	35.7%
女性の経済的自立支援のための相談窓口の充実	18.8%	12.9%	22.5%	18.5%	22.9%	17.2%	18.8%	10.7%
安心して働けるように保育サービスを充実	50.9%	69.9%	54.3%	46.9%	52.3%	52.9%	34.4%	28.6%
労働時間の短縮、育児休業・介護休業制度等の普及	58.6%	72.0%	76.0%	63.0%	57.8%	46.0%	37.5%	35.7%
男女共同参画の考え方を広報活動などで広める	13.6%	14.0%	10.9%	13.6%	10.1%	12.6%	19.8%	21.4%
行政の政策や方針決定の場への女性の参画促進	21.3%	22.6%	14.7%	21.0%	21.1%	27.6%	26.0%	14.3%
男女の地域活動への積極的参加を支援	19.1%	14.0%	11.6%	21.0%	15.6%	14.9%	35.4%	35.7%
高齢者・障がい者等への福祉サービスの充実	37.4%	24.7%	27.9%	35.8%	44.0%	49.4%	39.6%	57.1%
その他	3.0%	4.3%	2.3%	7.4%	0.9%	2.3%	2.1%	3.6%
無回答	17.7%	0.0%	18.6%	9.9%	19.3%	14.9%	29.2%	57.1%

該当する項目の ☐ に ☒ をつけてください。

あなたについて

問1 あてはまるものをそれぞれ12選んでください。

性別	1 ☐ 男	2 ☐ 女			
年代	☐ 20代	☐ 30代	☐ 40代	☐ 50代	☐ 60代
(※8/1時点でお答えください)	☐ 70代	☐ 80代以上			
配偶者がいますか	1 ☐ いる	2 ☐ 離婚・死別などにより、現在はいない			
	3 ☐ いない				
お仕事は何ですか	1 ☐ 自営業 2 ☐ 農林漁業 3 ☐ 会社、団体、官公庁に勤務(正社員)				
	4 ☐ 派遣、契約社員 5 ☐ パート、アルバイト 6 ☐ 学生 7 ☐ 無職				
	8 ☐ その他(具体的に: _____)				

社会全体での男女平等について

問2 現在の日本社会は男女平等になっていると思いますか。

次の項目それぞれについて、あなたの環境や考えに近いものを12選んでください。

	どちらかといえば 男性優遇 1	平等である 2	どちらかといえば 女性優遇 3	どちらとも いえない 4	わからない 5
家庭の中では	☐	☐	☐	☐	☐
職場の中では	☐	☐	☐	☐	☐
地域の中では	☐	☐	☐	☐	☐
学校教育では	☐	☐	☐	☐	☐
政治の場では	☐	☐	☐	☐	☐
法律、制度では	☐	☐	☐	☐	☐
社会全体では	☐	☐	☐	☐	☐

家庭における男女平等について

問3 配偶者のいる方にお尋ねします。(未婚、死別、離別等により配偶者のいない方は問4へ)

家庭における仕事の役割はどうなっていますか。

次の項目それぞれについて、現状に近いものを12選んでください。

	どちらかといえば 夫の担当 1	夫婦同じ 程度に分担 2	どちらかといえば 妻の担当 3	家族で分担 4	わからない その他 5
食事の支度	☐	☐	☐	☐	☐
食後の片づけ	☐	☐	☐	☐	☐
洗濯	☐	☐	☐	☐	☐
掃除	☐	☐	☐	☐	☐
ゴミ出し	☐	☐	☐	☐	☐
日常の買い物	☐	☐	☐	☐	☐
介護や看病	☐	☐	☐	☐	☐
育児	☐	☐	☐	☐	☐
PTAや地域活動への参加	☐	☐	☐	☐	☐

職場における男女平等について

問4 男女が共に働き続けるためには、今後どのような対策が必要だと思いますか。
あなたの考えに近いものを次の中から3つ選び、番号をご記入ください。

1. 男女とも育児休暇・介護休暇制度を取得しやすくする環境づくり
2. 介護、育児制度などの福祉サービスの充実
3. 相談窓口「メンタルヘルス（心の健康）など」の設置
4. 職場における男女差別の是正
5. 出産、育児などによる退職者の再雇用制度の普及
6. 在宅勤務やフレックスタイム（自由勤務時間制）の導入
7. 労働時間の短縮
8. 中途採用や定年退職者の再雇用制度の拡大
9. その他（具体的に： _____）

こちらに
番号を
ご記入
ください

↓

問5 働いている方にお尋ねします。（現在、働いていない方は、問8へ）
あなたの職場は男女平等になっていると思いますか。
次の項目について、あなたの環境や考えに近いものをそれぞれ1つ選んでください。

	どちらかといえば 男性優遇	平等である	どちらかといえば 女性優遇	わからない その他
	1	2	3	4
募集や採用条件	☐	☐	☐	☐
昇進・昇格	☐	☐	☐	☐
人事配置	☐	☐	☐	☐
教育や研修制度	☐	☐	☐	☐
賃金	☐	☐	☐	☐
仕事内容	☐	☐	☐	☐
全体として	☐	☐	☐	☐

問6 女性が管理職につくことをどう思いますか。
あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

- 1 ☐賛成 2 ☐やや賛成 3 ☐反対 4 ☐やや反対 5 ☐どちらともいえない
6 ☐その他（具体的に： _____）

問7 あなたが管理職への昇進を打診されたらどうしますか。
あなたの考えに近いものを1つ選んでください。

- 1 ☐引き受ける 2 ☐断る 3 ☐わからない・その他

問7-1 「断る」「わからない・その他」と答えた方にお尋ねします。
その理由は何ですか。あなたの考えに近いものを選んでください（複数回答可）。

- 1 ☐家族の協力が得られないから
- 2 ☐家事・育児や介護に支障が出るから
- 3 ☐役職につくための知識や経験がないから
- 4 ☐役職につくことが面倒だから
- 5 ☐その他（具体的に： _____）

地域における男女平等について

問8 女性が区長やPTA会長などの役職につくことをどう思いますか。

あなたの考えに近いものを12選んでください。

- 1☐賛成 2☐やや賛成 3☐反対 4☐やや反対 5☐どちらともいえない
6☐その他（具体的に： _____ ）

問9 あなたが区長やPTA会長などの役職に推薦されたらどうしますか。

あなたの考えに近いものを12選んでください。

- 1☐引き受ける 2☐断る 3☐わからない・その他

問9-1 「断る」「わからない・その他」と答えた方にお尋ねします。

その理由は何ですか。あなたの考えに近いものを選んでください(複数回答可)。

- 1☐家族の協力が得られないから
2☐家事・育児や介護に支障が出るから
3☐役職につくための知識や経験がないから
4☐役職につくことが面倒だから
5☐その他（具体的に： _____ ）

男女の人権について

問10 DVは、人権を著しく侵害する重大な問題です。

このようなDVを、この1年間に経験、または身近で見聞したことがありますか。

あてはまるものをすべて選んでください。

※DVとは、ドメスティックバイオレンスの略で、配偶者や恋人などから身体的、性的な暴力を受けたり、言葉の暴力等によって精神的苦痛を感じたりすることをいいます。

- 1☐DVを受けたことがある
2☐DVをしたことがある
3☐身近で見聞きしたことがある
4☐経験したことも、見聞きしたこともない

問10-1 「DVを受けたことがある」と答えた方にお尋ねします。

DVを受けたとき、誰かに相談しましたか。

以下から当てはまるものを12選んでください。

- 1☐知人や親せきなど、個人に相談した
2☐公的な機関に相談した
⇒それはどこでしたか。具体的にご記入ください（ _____ ）
3☐上記以外に相談した
⇒具体的にはどこですか。名称をご記入ください（ _____ ）
4☐相談しなかった
⇒その理由は何ですか。具体的にご記入ください（ _____ ）

問11 DVの被害について、あなたはどこに相談すればいいか知っていますか。

- 1☐知っている 2☐知らない

男女共同参画社会について

問12 男女共同参画社会とは「男性も女性も、意欲に応じて、あらゆる分野で活躍できる社会」を言いますが、実現するために必要と思われるものは何ですか。

あなたの考えに近いものを次の中から3つ選び、番号をご記入ください。

1. 男女がお互いの立場を尊重しあうこと
2. 男女とも、生活的・経済的に自立すること
3. 自分の行動は自分で決めること
4. 仕事優先・企業優先の考え方を改めること
5. 家事や育児・介護などを男性も積極的に分担すること
6. 男女とも地域での活動や社会活動に参加すること
7. これまでの慣行や習慣を見直すこと
8. その他（具体的に： _____）

こちらに
番号を
ご記入
ください



問13 「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」を実現するために必要なことや行政に望むことは何ですか。

あなたの考えに近いものを次の中から3つ選び、番号をご記入ください。

※「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）」が実現した社会とは、老若男女誰もが、仕事や家庭生活、地域活動など様々な活動について自らバランスを取り、多様な生き方を選択できる社会をいいます。

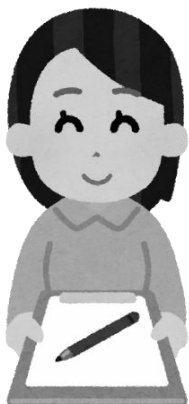
1. 男女の均等な雇用機会と待遇の促進
2. 女性の経済的自立支援のための相談窓口の充実
3. 安心して働けるように保育サービスを充実
4. 労働時間の短縮、育児休業・介護休業制度等の普及
5. 男女共同参画の考え方を広報活動などで広める
6. 行政の施策や方針決定の場への女性の参画促進
7. 男女の地域活動への積極的参加を支援
8. 高齢者、障がい者等への福祉サービスの充実
9. その他（具体的に： _____）

こちらに
番号を
ご記入
ください



アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、8月15日(土)までにご投函ください。



このアンケートに関してのご質問や、不明な点のお問い合わせはこちらへお寄せください。

担 当 課 加賀市役所 地域づくり推進課（男女共同参画係）

電 話 72-7836

F A X 72-7923

メ ー ル danjo@city.kaga.lg.jp

メールアドレスはこちらから読み取れます→



令和3年3月 発行

加賀市役所 市民生活部 地域づくり推進課
男女共同参画係

TEL : 0761-72-7836

FAX : 0761-72-7990

E-mail : danjo@city.kaga.lg.jp